

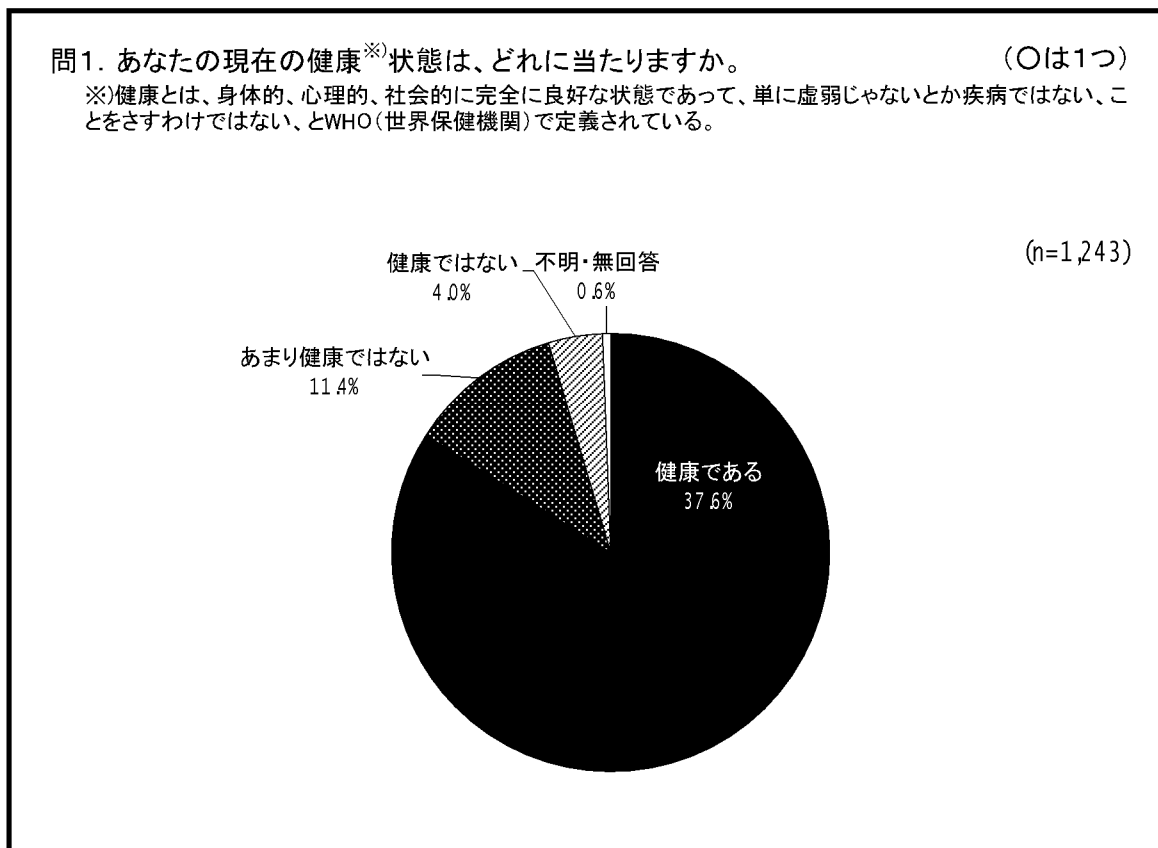
### Ⅲ. 調査結果

---

### Ⅲ. 調査結果

#### (1) 健康状態について

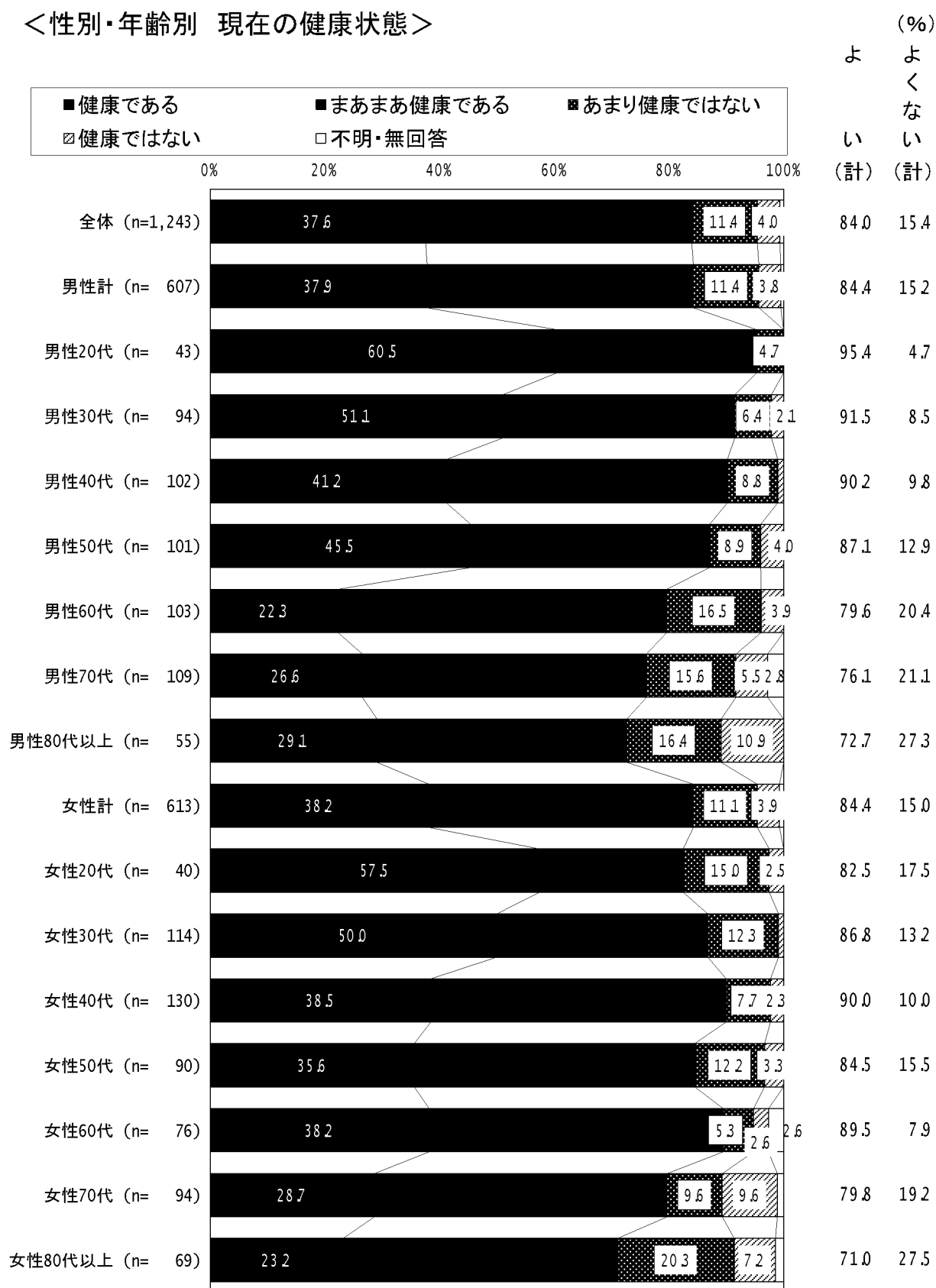
##### 現在の健康状態



現在の健康状態は、「まあまあ健康である」が46.4%と最も多く、次いで「健康である」(37.6%)、「あまり健康ではない」(11.4%)、「健康ではない」(4.0%)の順に続いている。

「健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた『健康である』は、全体では8割を超えているのに対し、性別・年齢別にみると、男性60代以上、女性70代以上で、8割を下回り、特に男性では、年齢が上がるごとに少なくなる傾向がある。

＜性別・年齢別 現在の健康状態＞



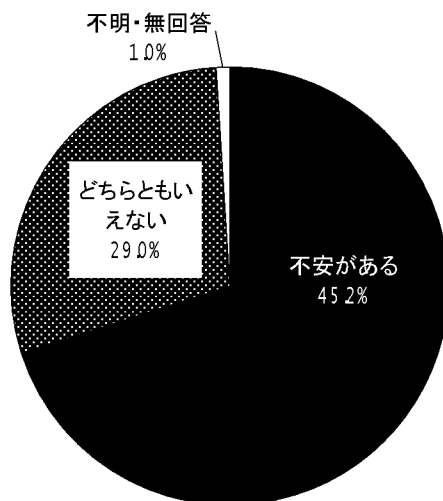
(注) 『よい(計)』は「健康である」「まあまあ健康である」の合計  
『よくない(計)』は「あまり健康ではない」「健康ではない」の合計

## 健康についての不安

問2. あなたは、健康について不安がありますか。

(○は1つ)

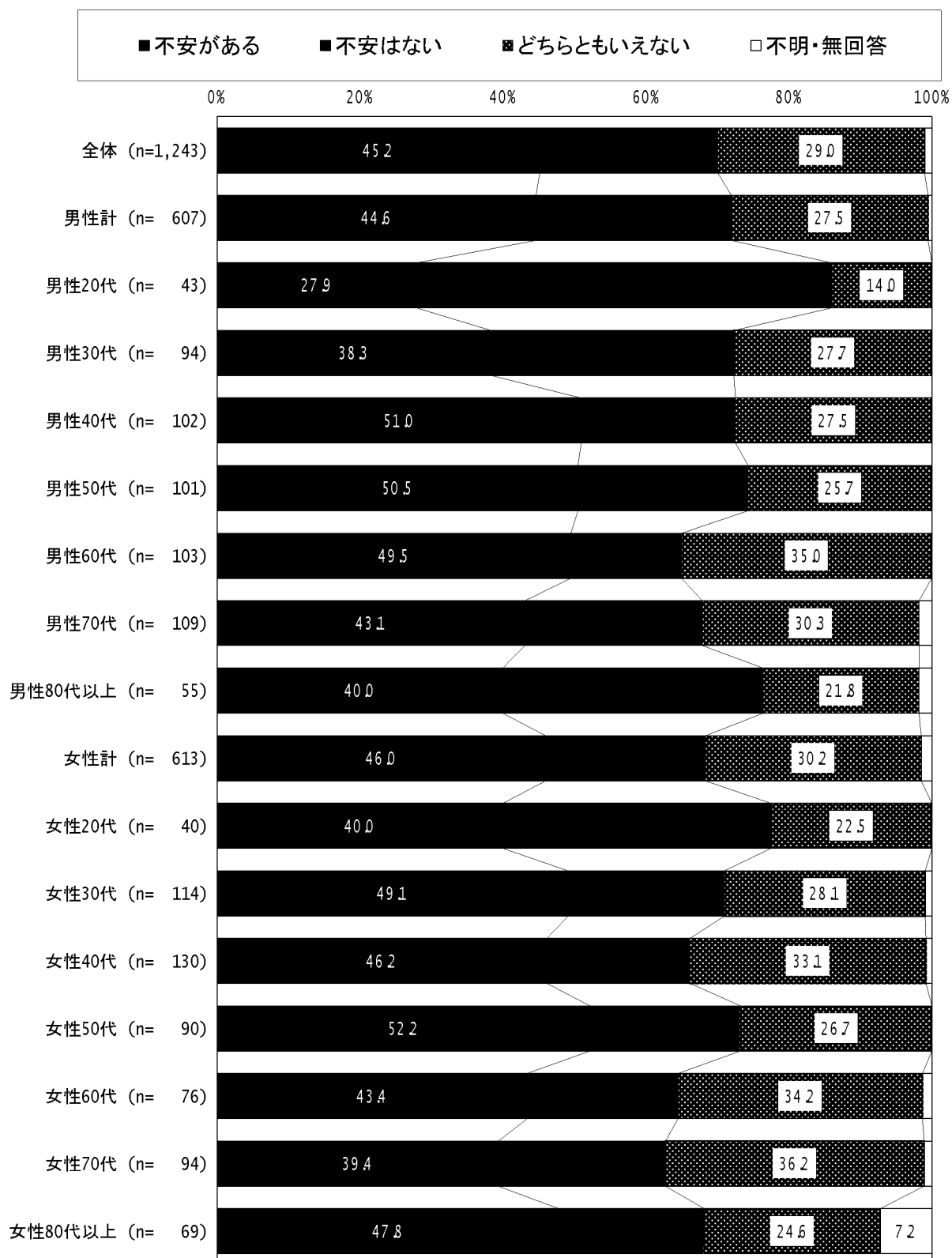
(n=1,243)



健康についての不安は、「不安がある」が45.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」(29.0%)、「不安はない」(24.9%)の順が続いている。

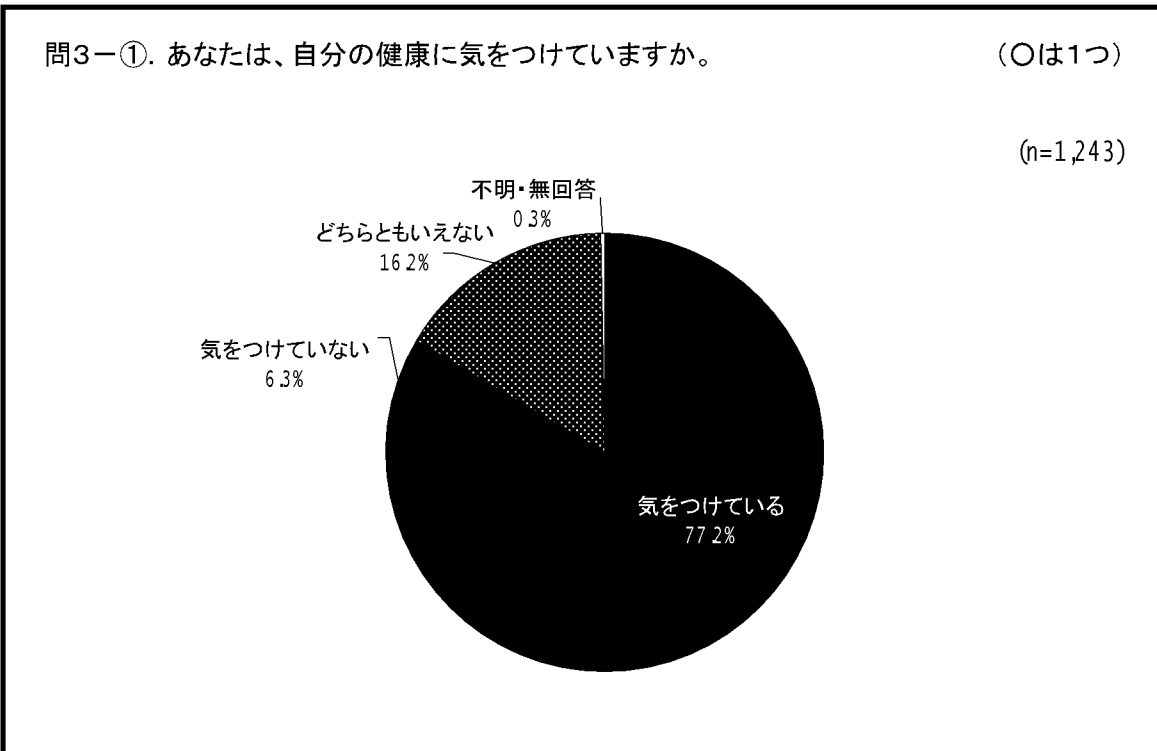
性別・年齢別にみると、男性20代を除く全年齢において、健康「不安がある」と回答した人がほぼ4割を超え、多くの人が不安を持っていた。

## <性別・年齢別 健康についての不安>



## (2) 健康の維持増進について

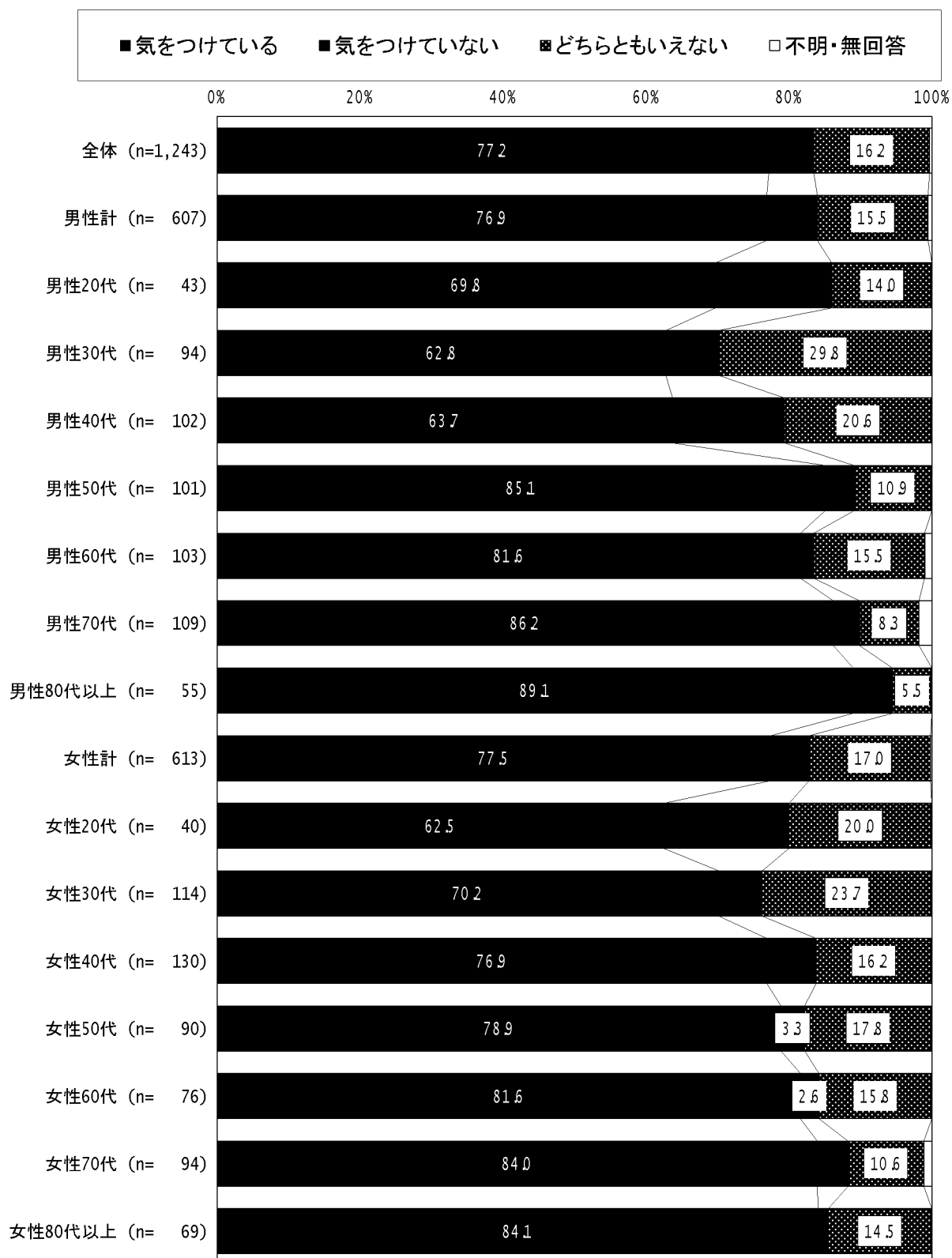
### 健康に気をつけているか



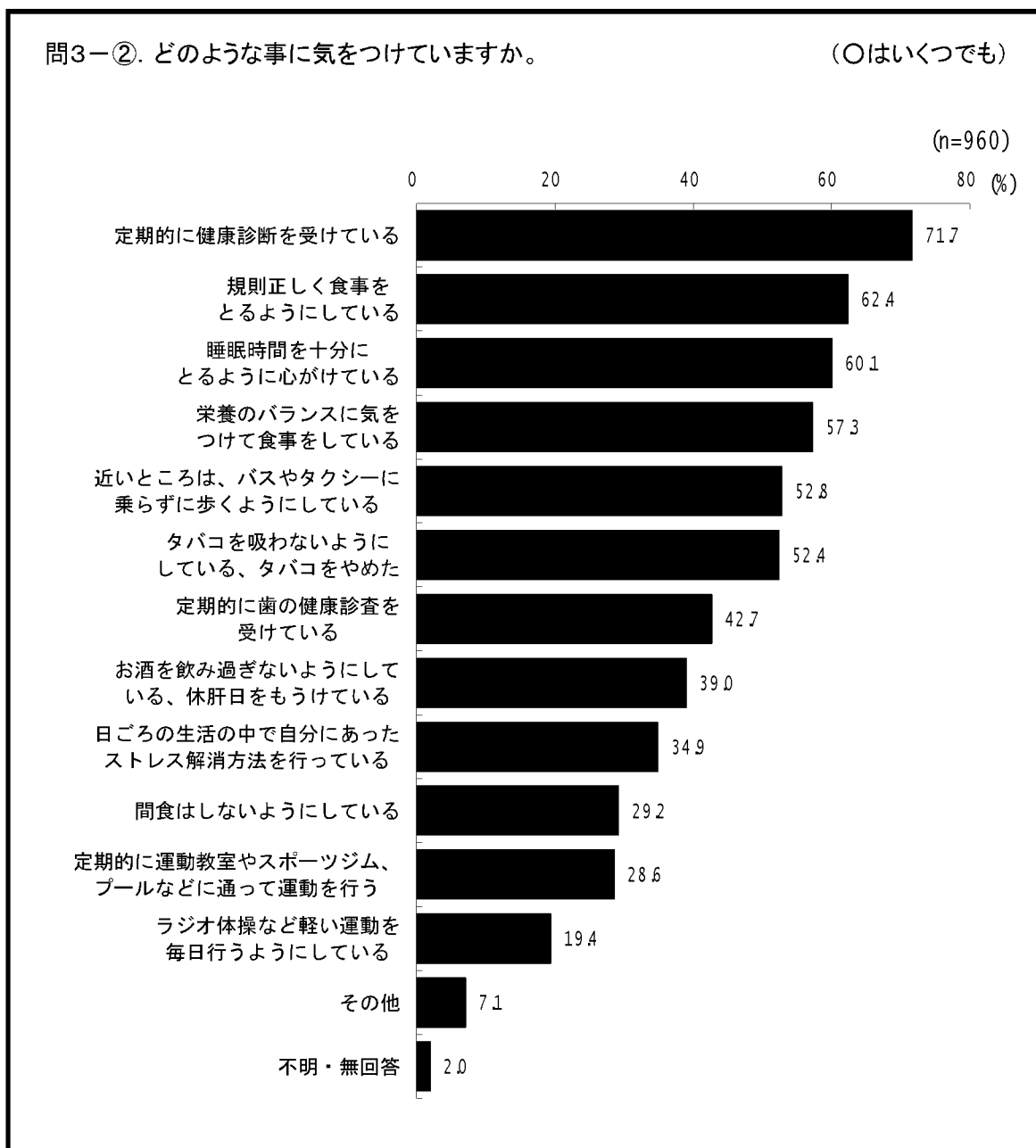
健康に気をつけているかたずねたところ、「気をつけている」が77.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」(16.2%)、「気をつけていない」(6.3%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、女性では「気をつけている」は年齢が上がるほど多くなる傾向があり、男性50代以上、女性60代以上で8割を超えている。

## <性別・年齢別 健康に気をつけているか>



## 健康について気をつけていること

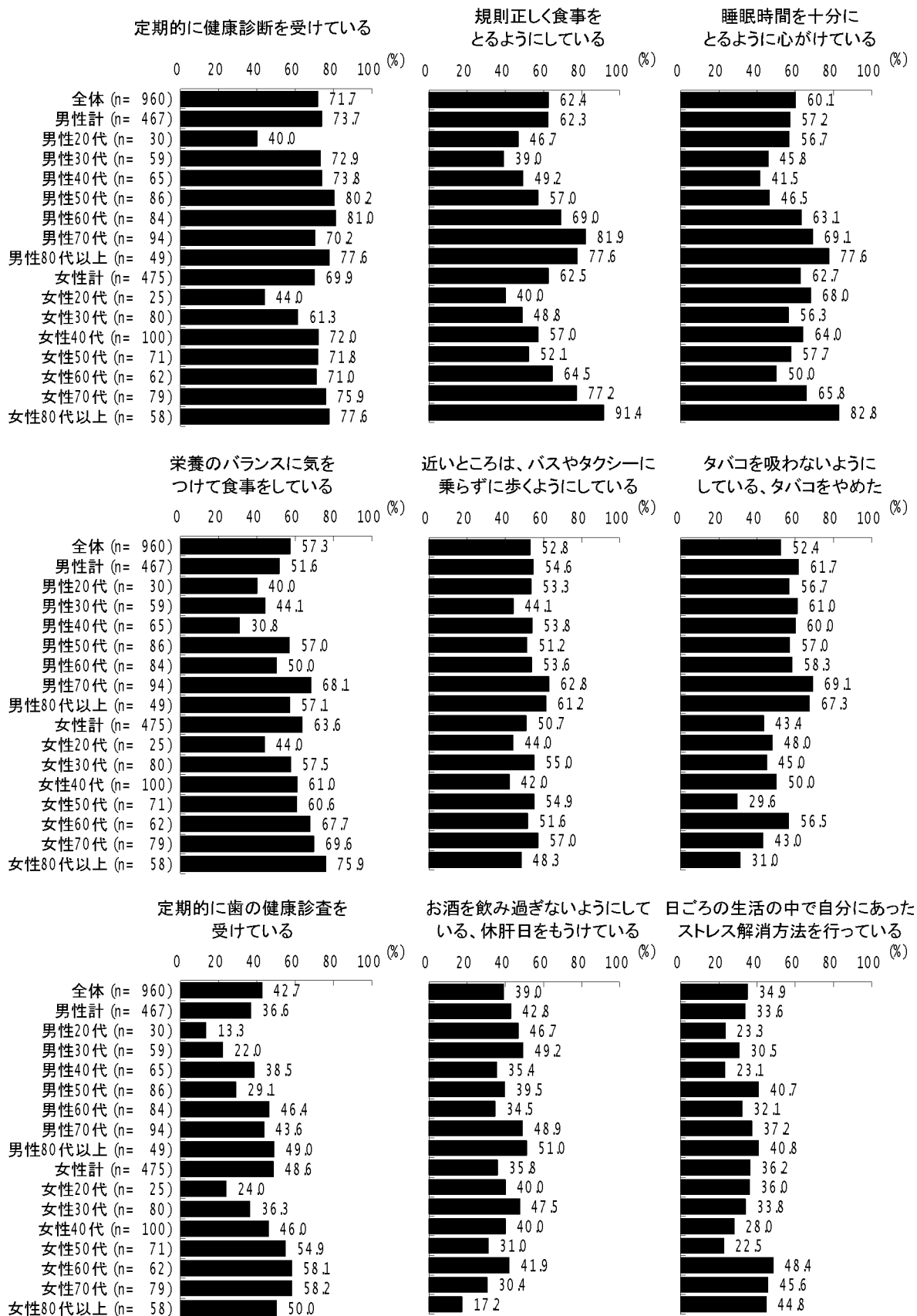


健康に気をつけていると回答した人に、気をつけていることをたずねたところ、「定期的に健康診断を受けている」が71.7%と最も多く、次いで「規則正しく食事をするようにしている」(62.4%)、「睡眠時間を十分にとるように心がけている」(60.1%)の順に続いている。

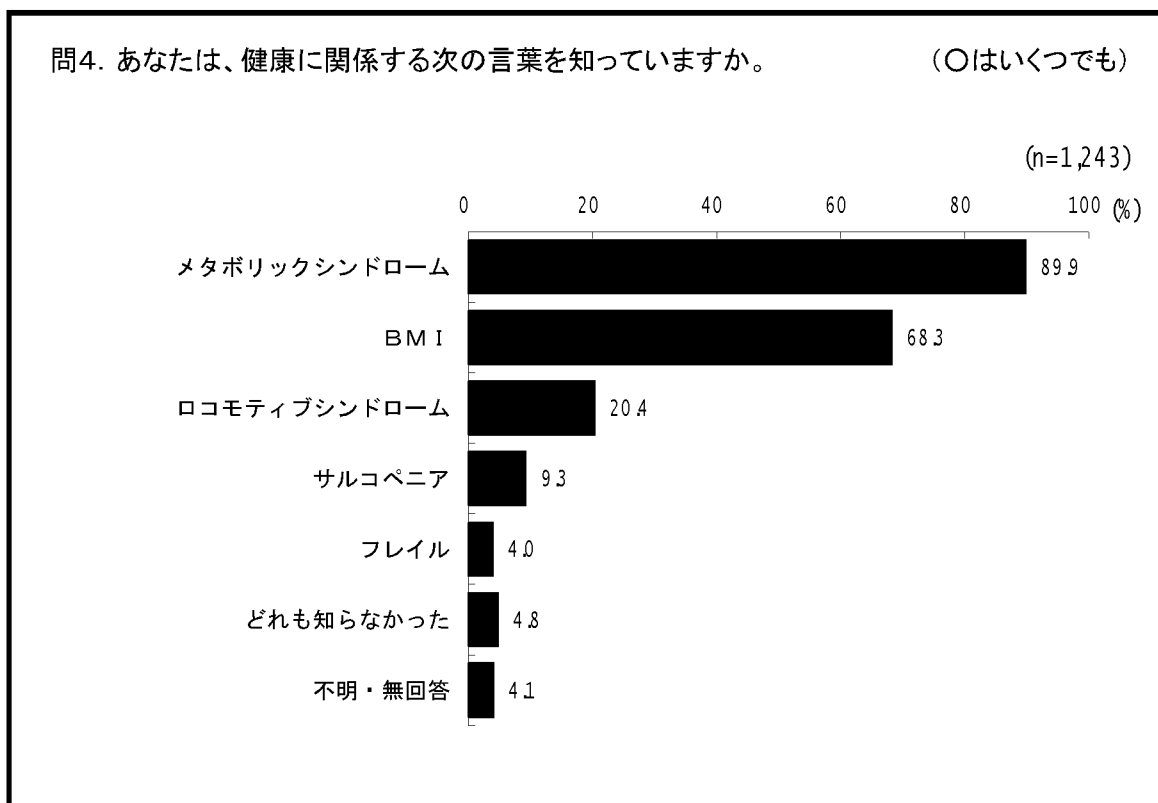
性別・年齢別にみると、「定期的に健康診断を受けている」は男性50代～60代で8割を超え多くになっている。「規則正しく食事をするようにしている」は男女とも70代以上で7割を超えている一方、男性30代では4割を下回っている。



## <性別・年齢別 健康について気をつけていること(上位9項目)>



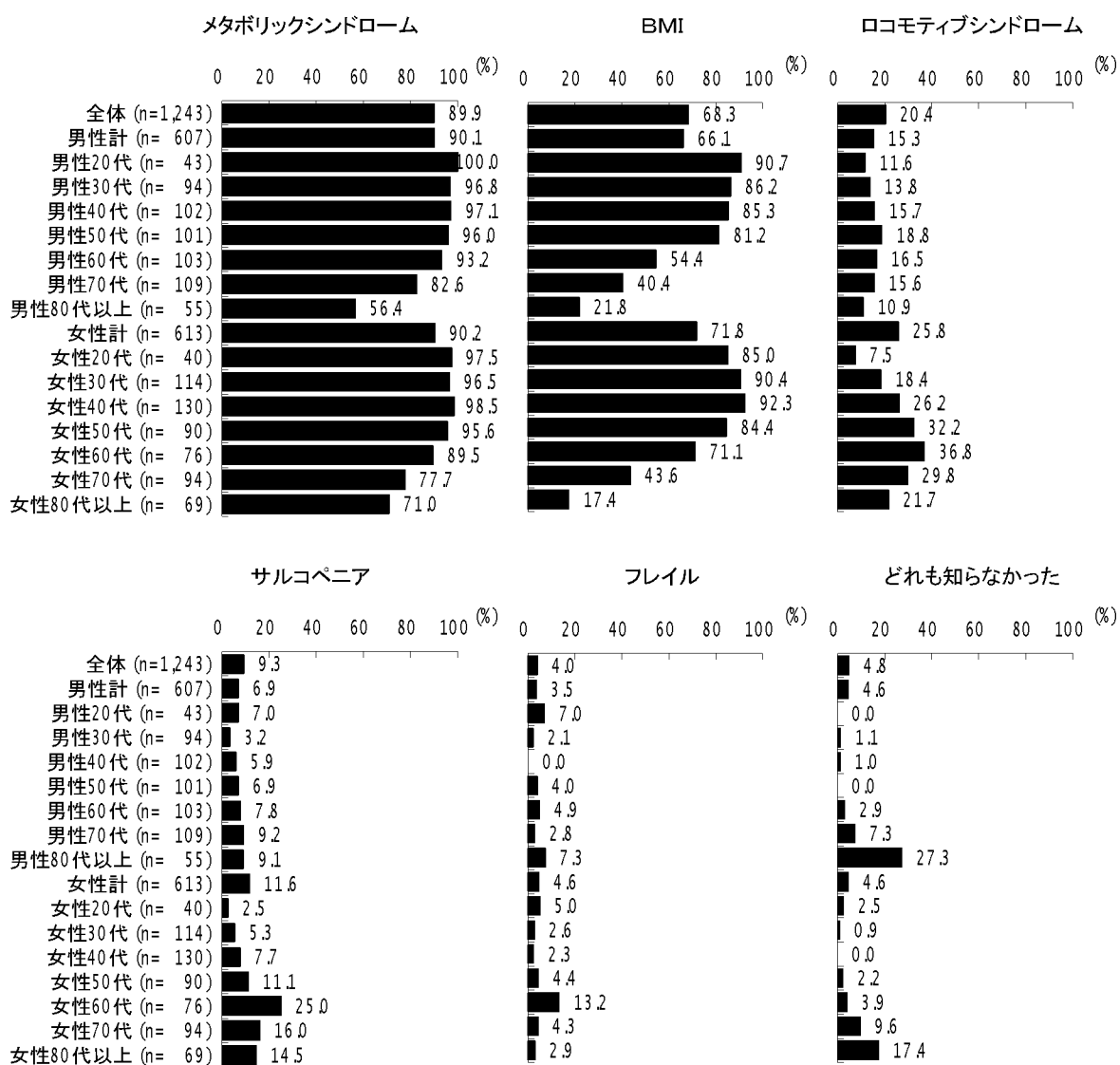
## 健康に関する言葉の認知状況



健康に関する言葉の認知状況は、「メタボリックシンドローム」が89.9%と最も多く、次いで「BMI」(68.3%)、「ロコモティブシンドローム」(20.4%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「メタボリックシンドローム」は男性20代～60代と、女性20代～50代で9割を超え多くなっている。「BMI」は男性20代、女性30代～40代で9割を超え、他の性・年齢と比較して多くなっている。

## <性別・年齢別 健康に関する言葉の認知状況>

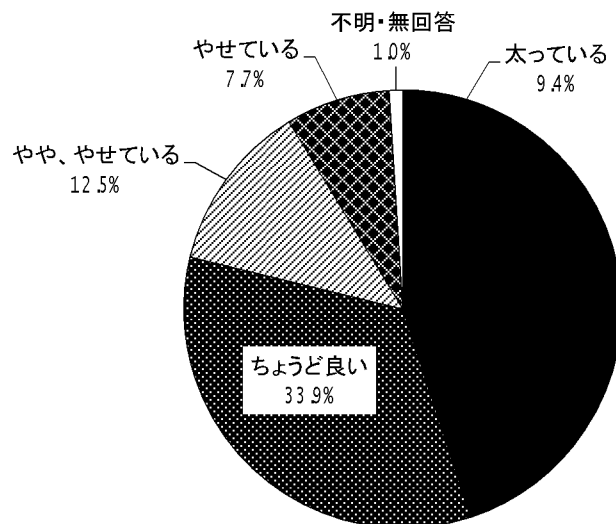


## 自身の体形についての認識

問5. あなたは、ご自分の体形についてどのように思っていますか。

(○は1つ)

(n=1,243)



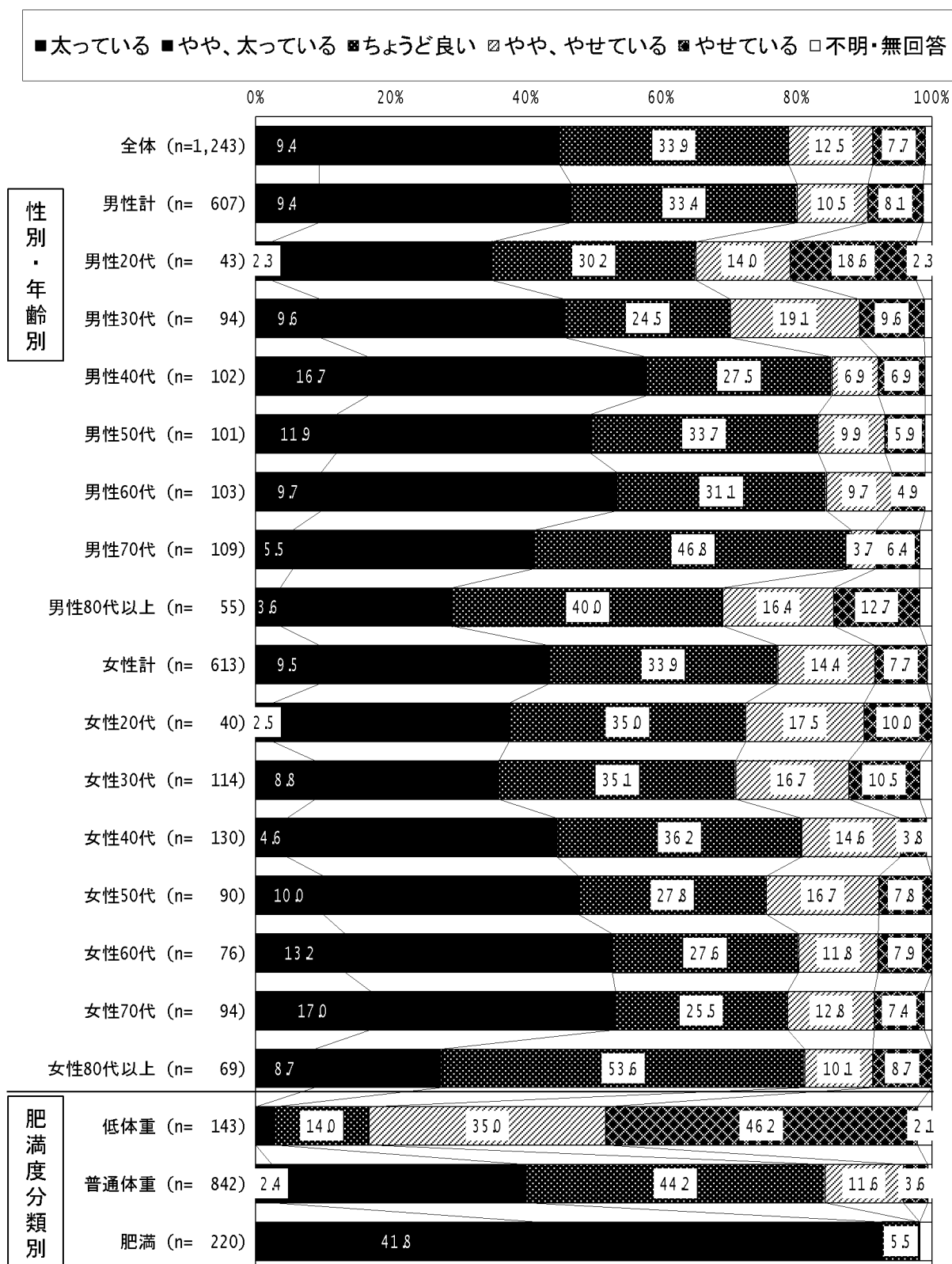
自身の体形についての認識は、「やや、太っている」が35.6%と最も多く、次いで「ちょうど良い」(33.9%)、「やや、やせている」(12.5%)、「太っている」(9.4%)、「やせている」(7.7%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「太っている」と「やや、太っている」を合わせた『太っている』は男性40代と60代、女性60代～70代で5割を超えて多くなっている。

肥満度分類別にみると、低体重から肥満になるほど「太っている」が多くなっている。普通体重では、「ちょうど良い」が44.2%と最も多く、次いで「やや、太っている」

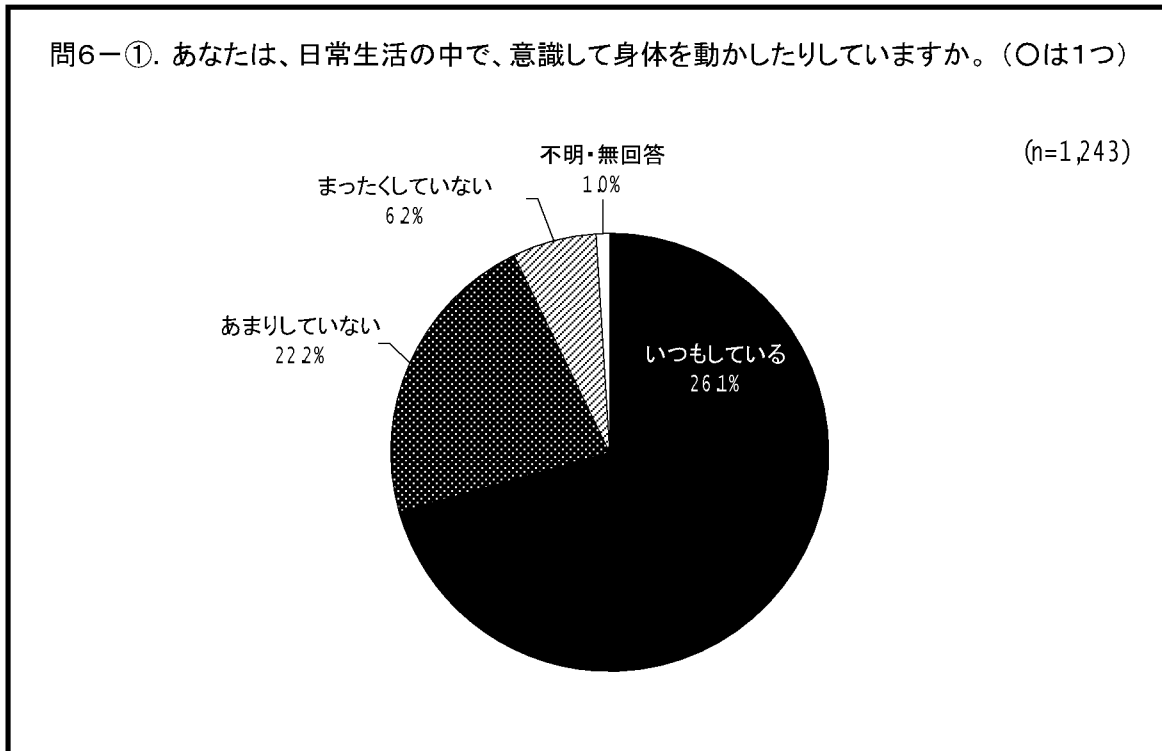
(37.6%)、「やや、やせている」(11.6%)の順となっており、「やや、太っている」のほうが「やや、やせている」より3倍以上多くなっている。

<性別・年齢別・肥満度分類別 自身の体形についての認識>



### (3) 身体活動について

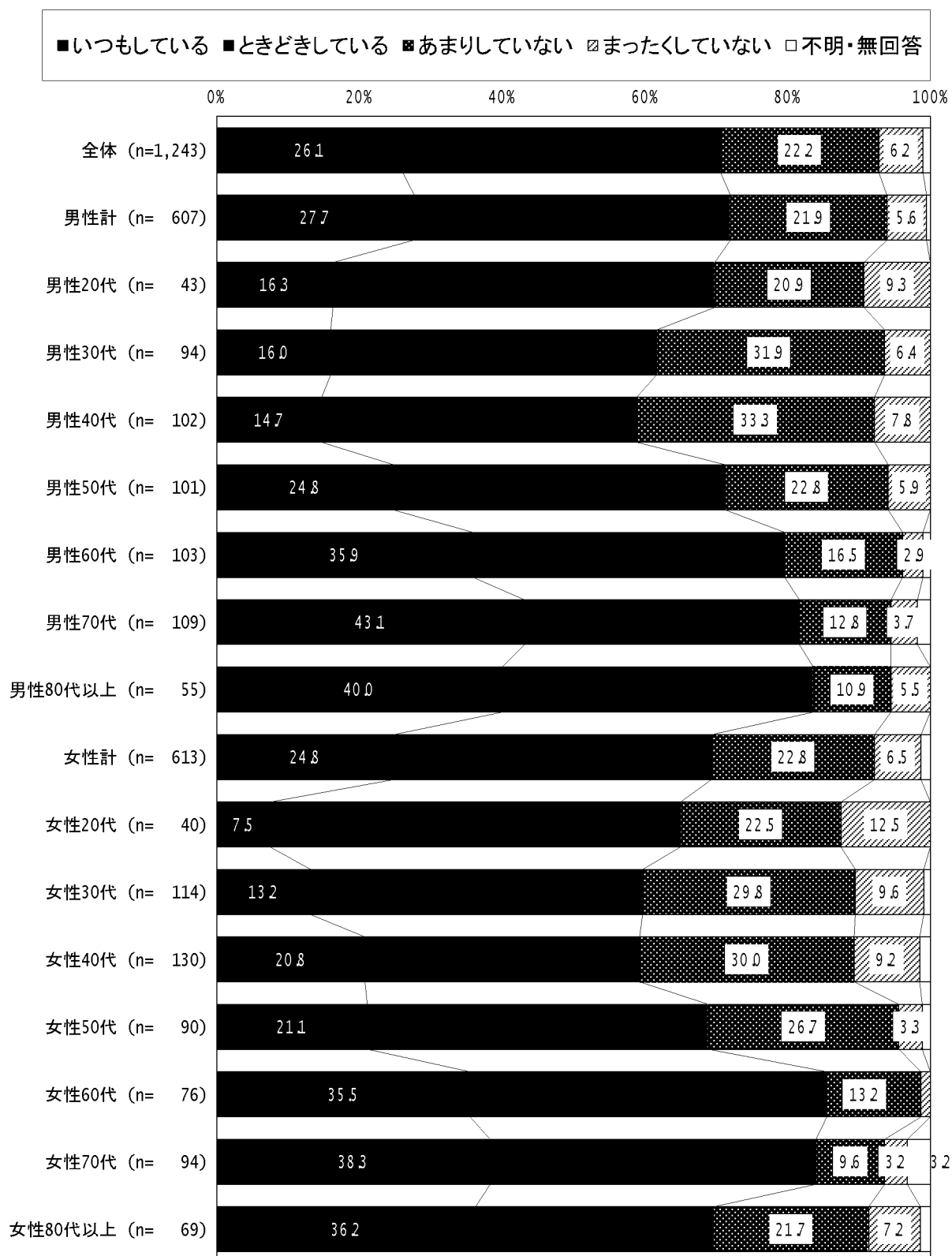
#### 日常生活の中で意識して身体を動かしているか



日常生活の中で意識して身体を動かしているかたずねたところ、「ときどきしている」が44.5%と最も多く、次いで「いつもしている」(26.1%)、「あまりしていない」(22.2%)、「まったくしていない」(6.2%)の順が続いている。

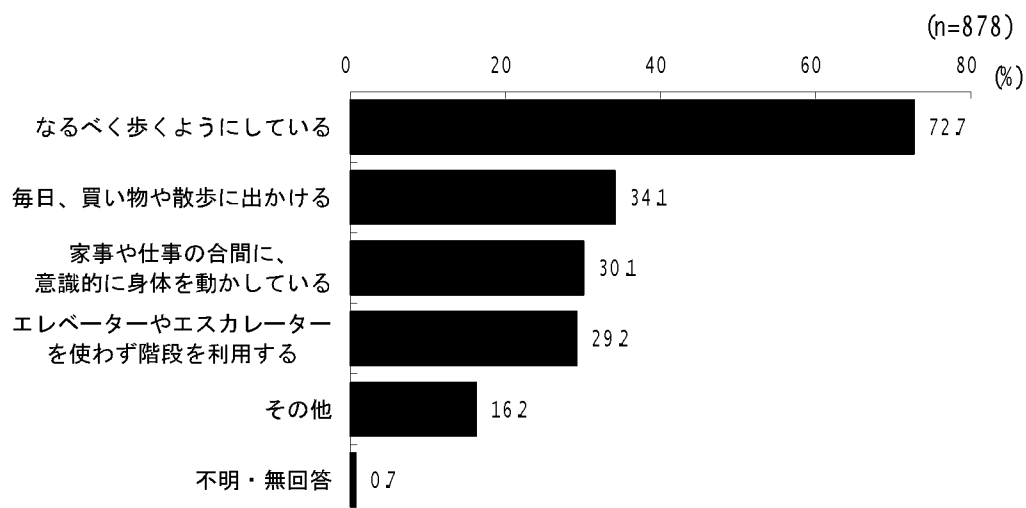
性別・年齢別にみると、「いつもしている」は、80代を除き年齢が上がるほど多くなる傾向があり、男性70代以上で4割以上となっている。

## <性別・年齢別 日常生活の中で意識して身体を動かしているか>



## 日常生活の中で心掛けていること

問6-②. あなたは、日常生活の中で、どのような事を心掛けていますか。(〇はいくつでも)

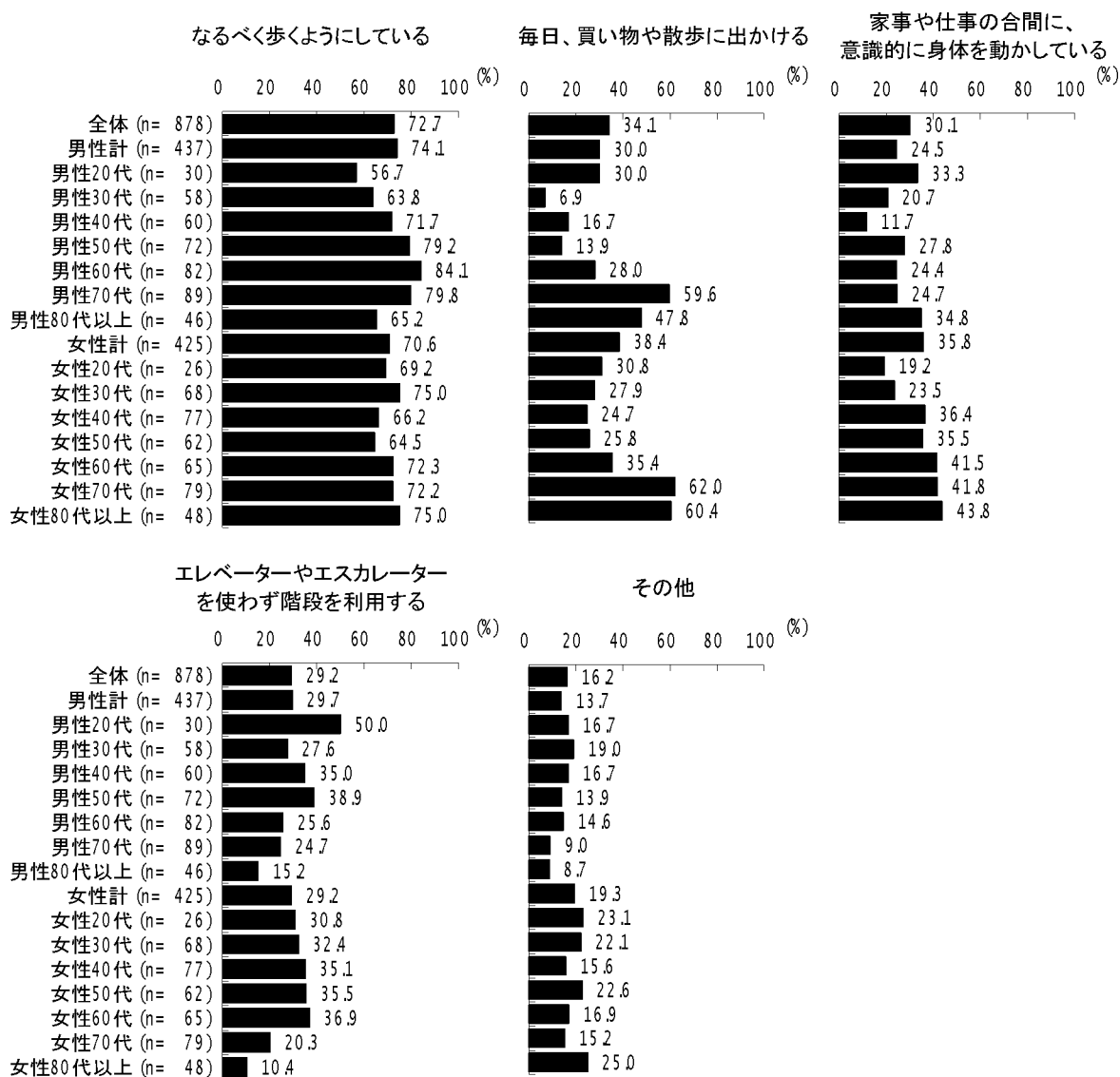


日常生活の中で意識して身体を動かしている人に、心掛けていることたずねたところ、「なるべく歩くようにしている」が72.7%と最も多く、次いで「毎日、買い物や散歩に出かける」(34.1%)、「家事や仕事の合間に、意識的に身体を動かしている」(30.1%)、「エレベーターやエスカレーターを使わず階段を利用する」(29.2%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「なるべく歩くようにしている」は男性60代で8割を超え多くなっている。「毎日、買い物や散歩に出かける」は女性70代以上で6割を超えている。



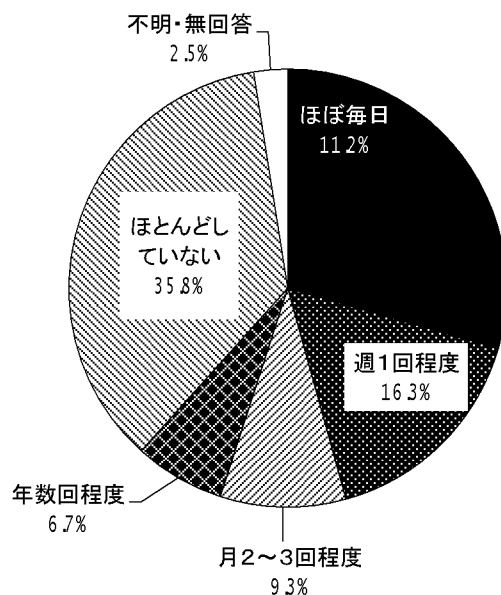
## <性別・年齢別 日常生活の中で心掛けていること>



## 30分以上の運動やスポーツをする頻度

問7-①. あなたは、30分以上の運動やスポーツ(学校の授業は除く)をどのくらいしていますか。(〇は1つ)

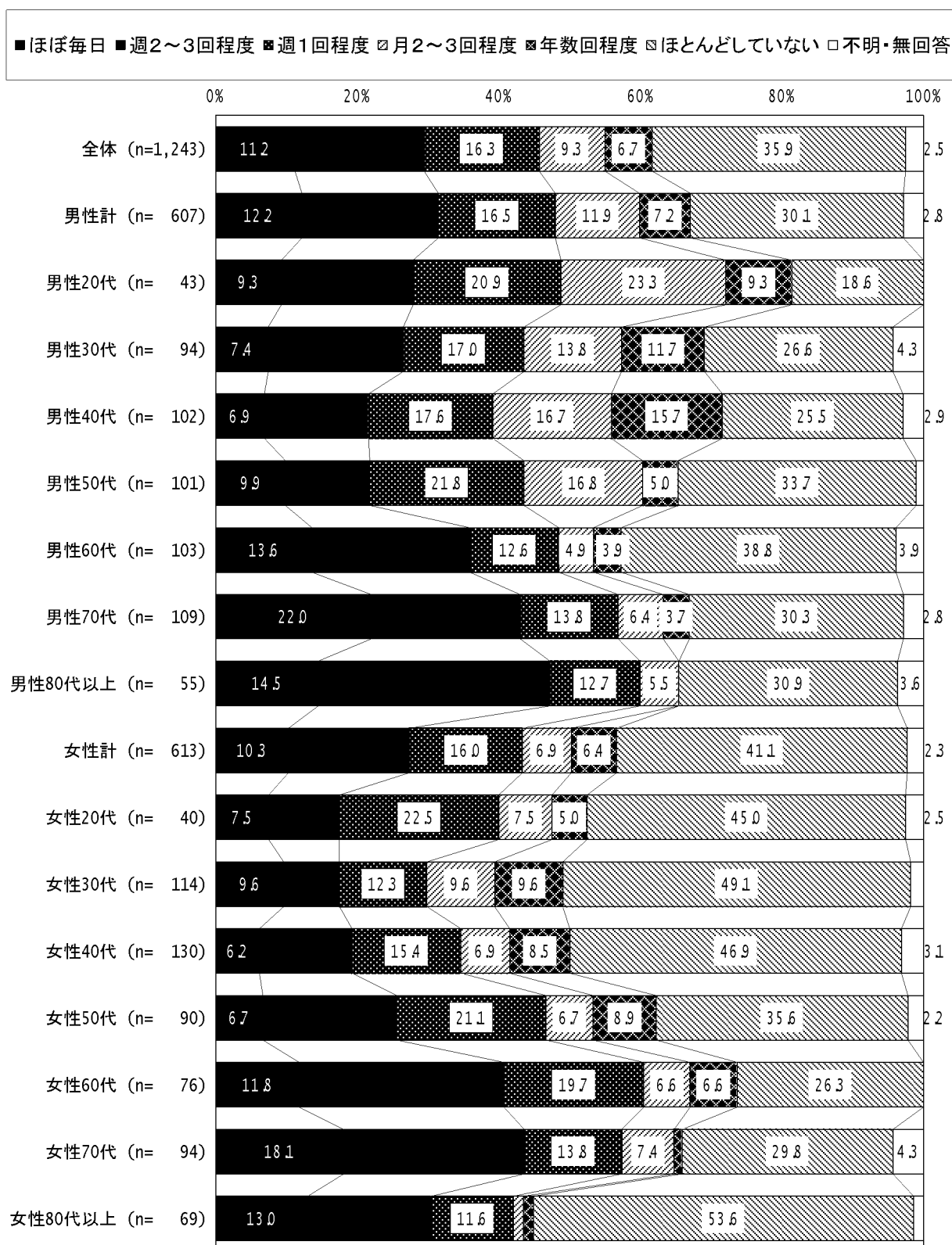
(n=1,243)



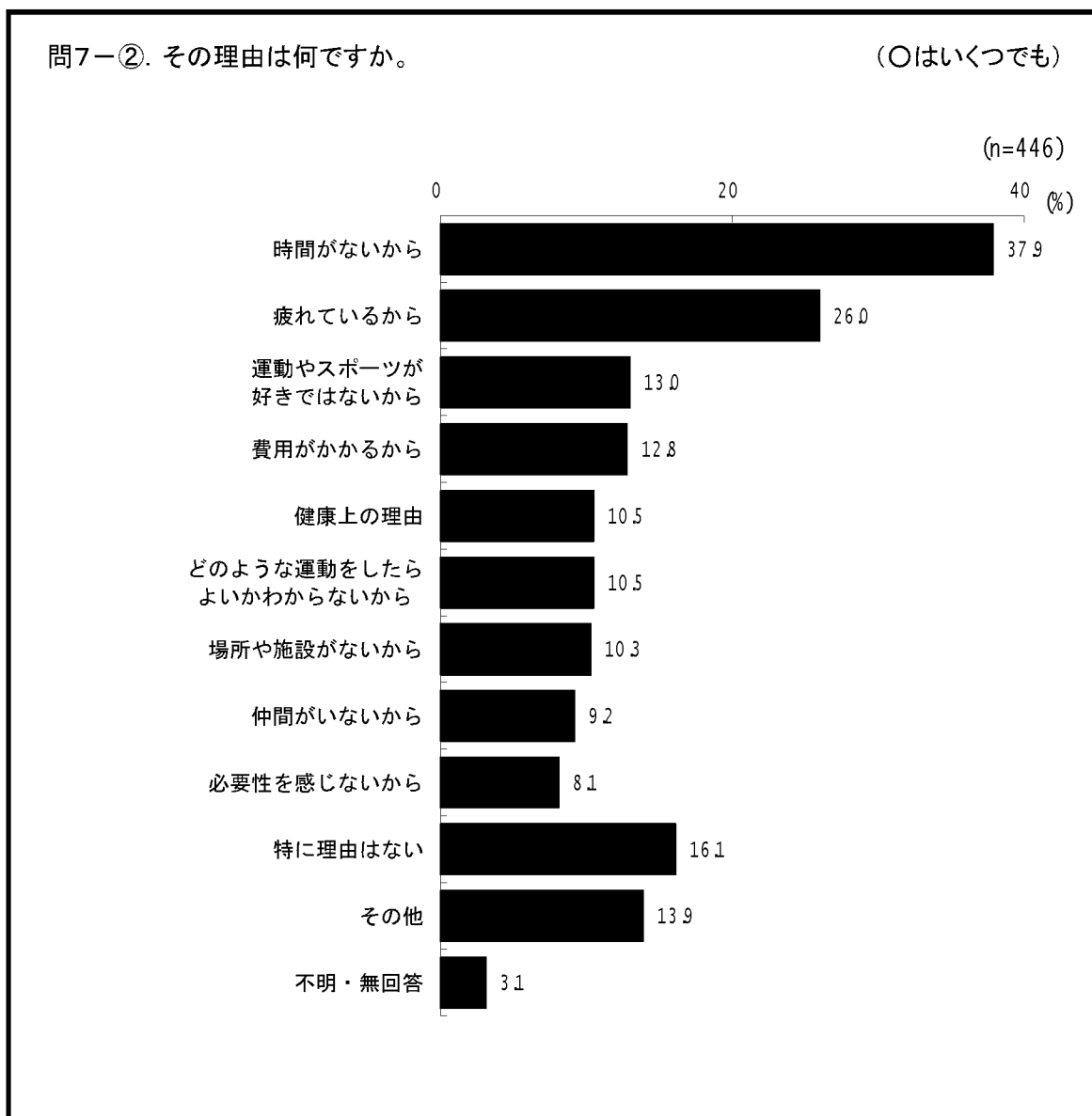
30分以上の運動やスポーツをする頻度は、「ほとんどしていない」が35.8%と最も多く、次いで「週2~3回程度」(18.3%)、「週1回程度」(16.3%)、「ほぼ毎日」(11.2%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「ほぼ毎日」と「週2~3回程度」と「週1回程度」を合わせた『週1回以上』は女性60代で6割を超えて多くなっている。「ほとんどしていない」は女性20~40代と80代以上で4割を超え、他の性・年齢に比べて多くなっている。

## <性別・年齢別 30分以上の運動やスポーツをする頻度>



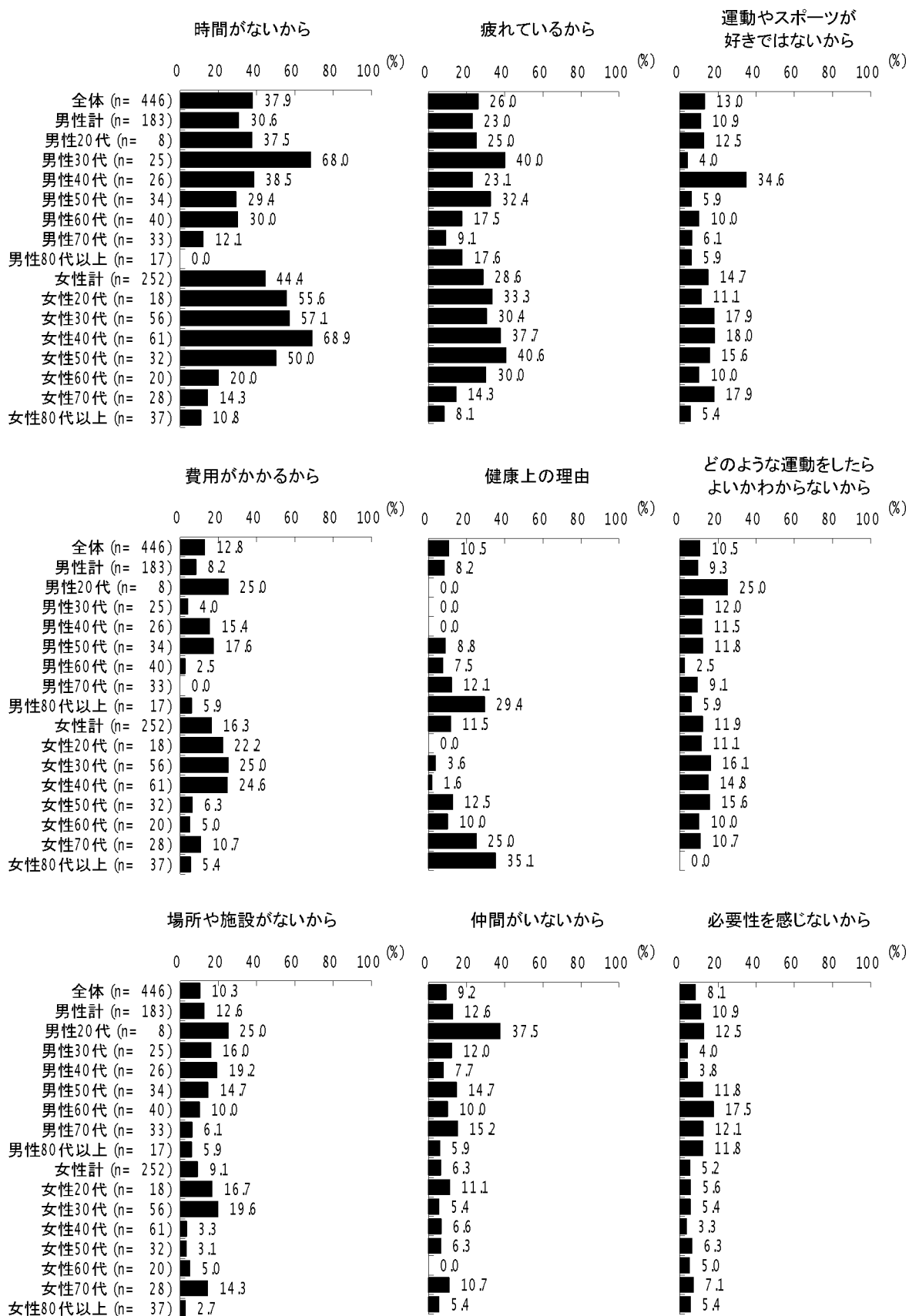
## 運動やスポーツをしない理由



運動やスポーツをほとんどしていない回答した人に、その理由をたずねたところ、「時間がないから」が37.9%と最も多く、次いで「疲れているから」(26.0%)、「特に理由はない」(16.1%)の順が続いている。

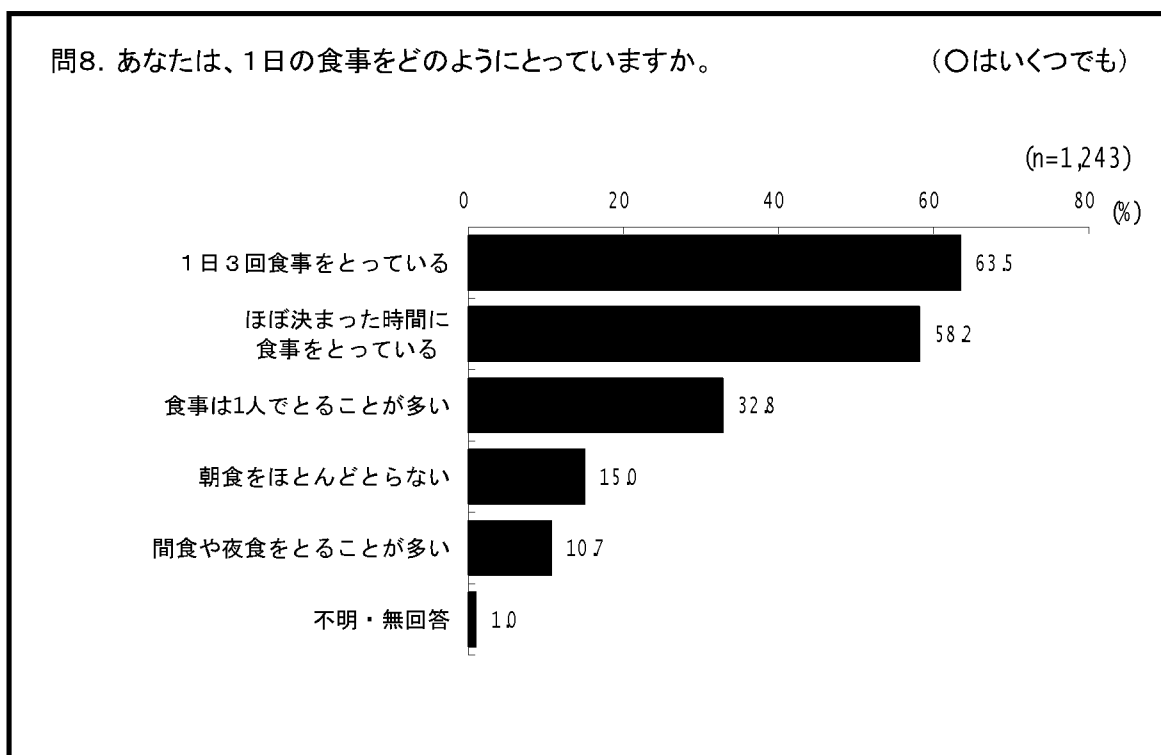
性別・年齢別にみると、「時間がないから」は男性30代と女性40代で6割を超えている一方、男女とも70代以上で2割を下回っている。「疲れているから」は男性30代と女性50代で4割以上となっており、他の性・年齢と比較して多くなっている。

## <性別・年齢別 運動やスポーツをしない理由(上位9項目)>



## (4) 食生活について

### 1日の食事のとり方

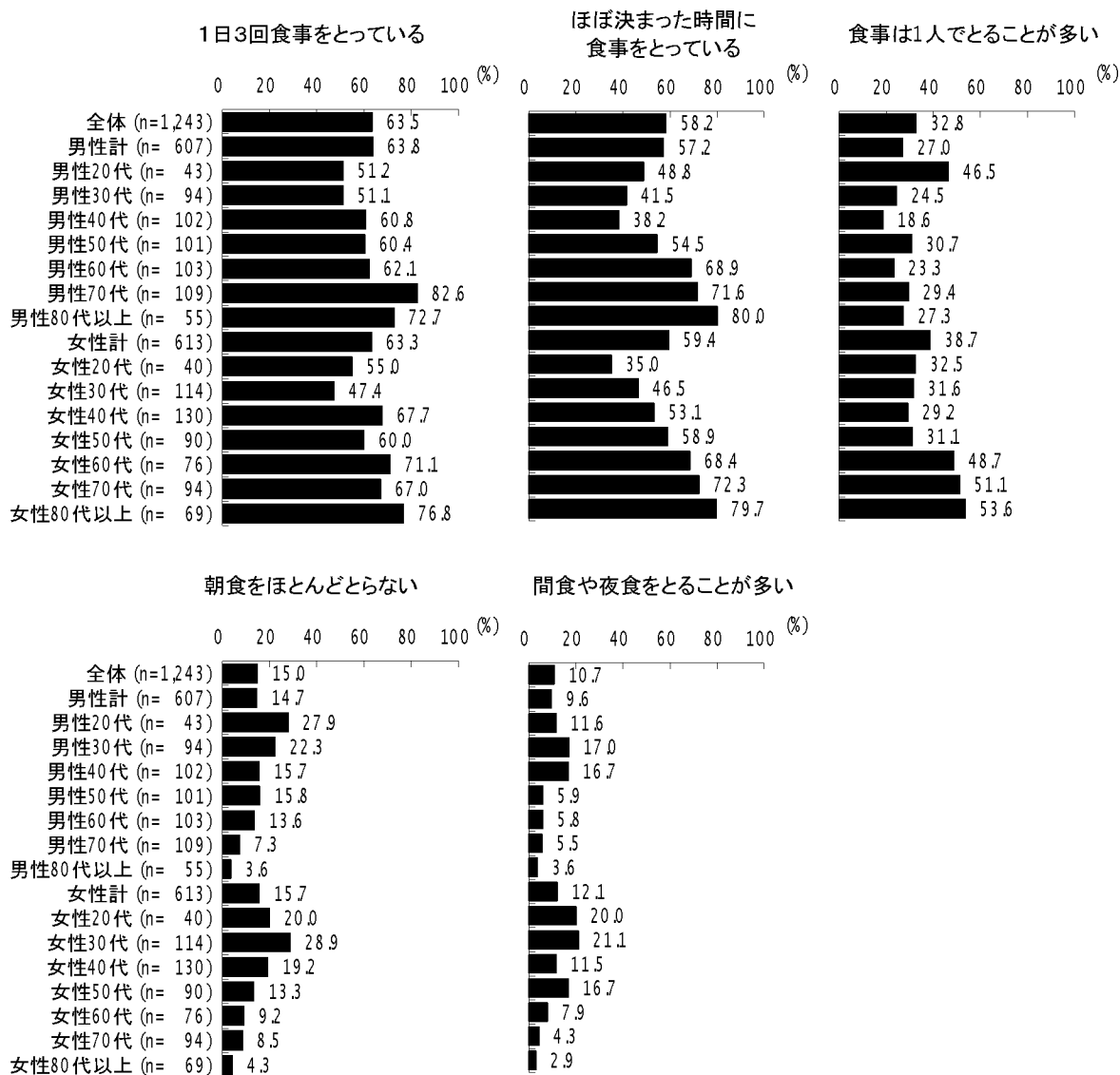


1日の食事のとり方は、「1日3回食事をとっている」が63.5%と最も多く、次いで「ほぼ決まった時間に食事をとっている」(58.2%)、「食事は1人でとることが多い」(32.8%)、「朝食をほとんどとらない」(15.0%)、「間食や夜食をとることが多い」(10.7%)の順に続いている。

性別・年齢別にみると、「1日3回食事をとっている」は男性70代で8割を超えている一方、女性30代で5割を下回り少なくなっている。「ほぼ決まった時間に食事をとっている」は年齢が上がるにつれて多くなる傾向があり、男女とも70代以上で7割を超えている。

また、「朝食をほとんどとらない」割合は、全体では15%であったが、男性では、20代の27.9%が「とらない」と回答し、年齢が上がるにつれ下がる傾向がある。一方、女性では、20代は20.0%と男性より低かったが、30代が28.9%と最も多く、年齢が上がると下がる傾向となっていた。

## <性別・年齢別 1日の食事のとり方>



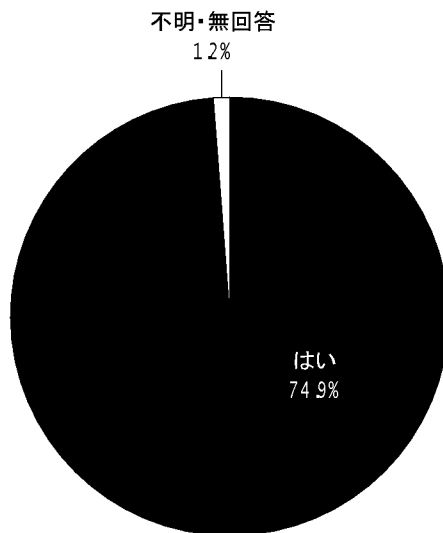
## バランスや食事の量を考えて食べているか

問9. あなたは、主食<sup>※</sup>とおかずのバランスや、食事の量を考えて食べていますか。

※)主食とはごはん、パンめん類などのことです。

(○は1つ)

(n=1,243)

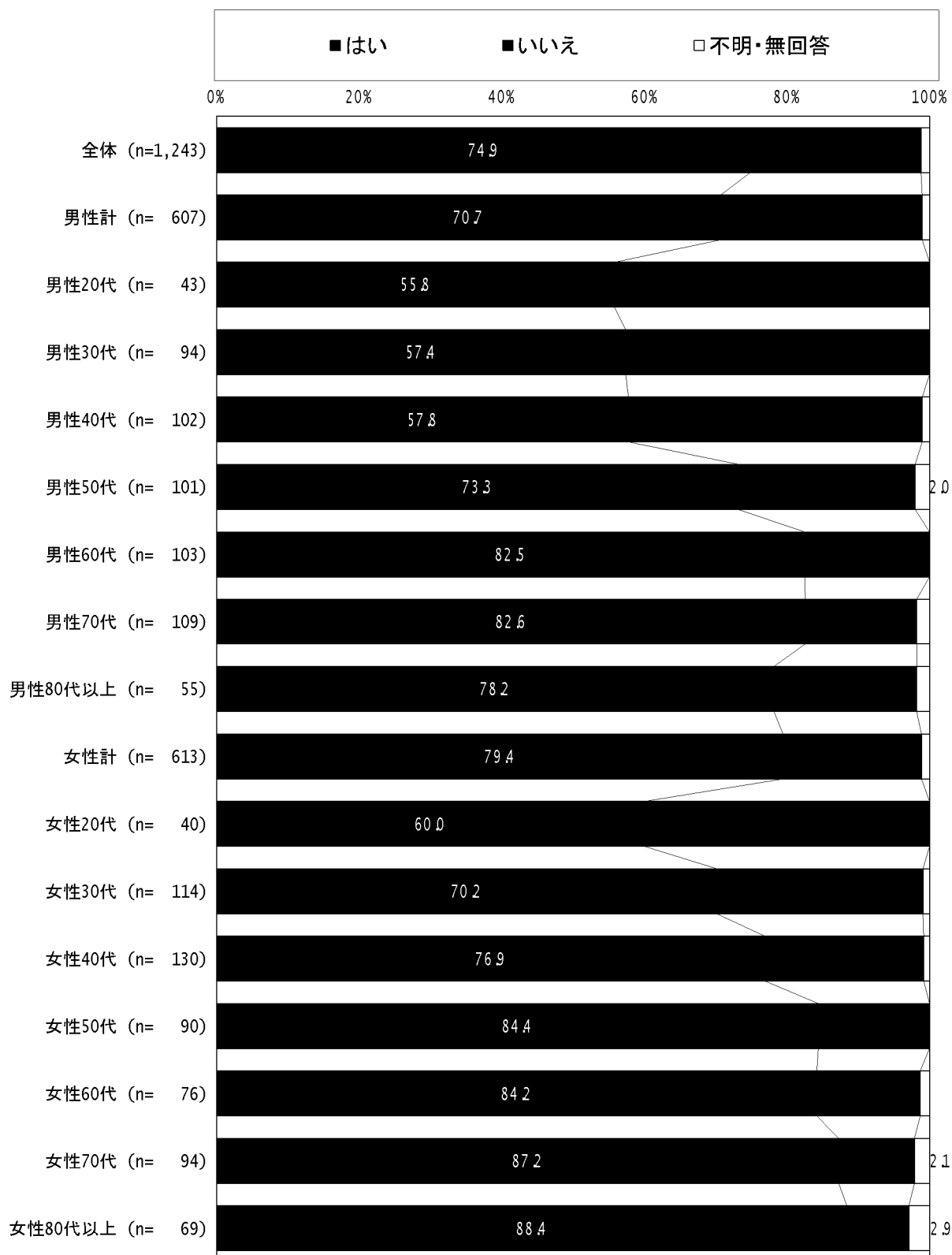


バランスや食事の量を考えて食べているかたずねたところ、「はい」が74.9%、「いいえ」が23.9%となっている。

性別・年齢別にみると、「はい」は年齢が上がるにつれて多くなる傾向があり、男性では60代～70代、女性では50代以上で8割を超えている。



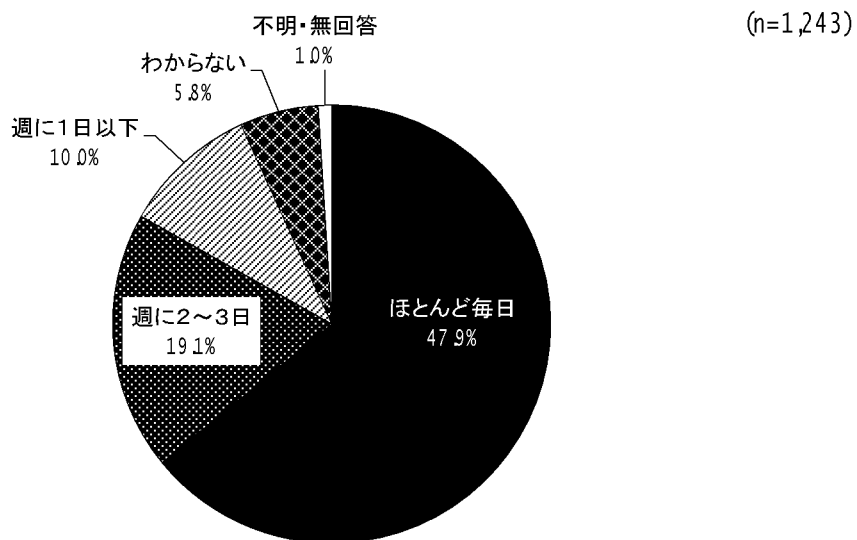
<性別・年齢別 バランスや食事の量を考えて食べているか>



## 主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度

問10. あなたは、主食・主菜<sup>※1)</sup>・副菜<sup>※2)</sup>の3つを組み合わせた食事を1日2回以上食べる  
ことが何日ありますか。 (○は1つ)

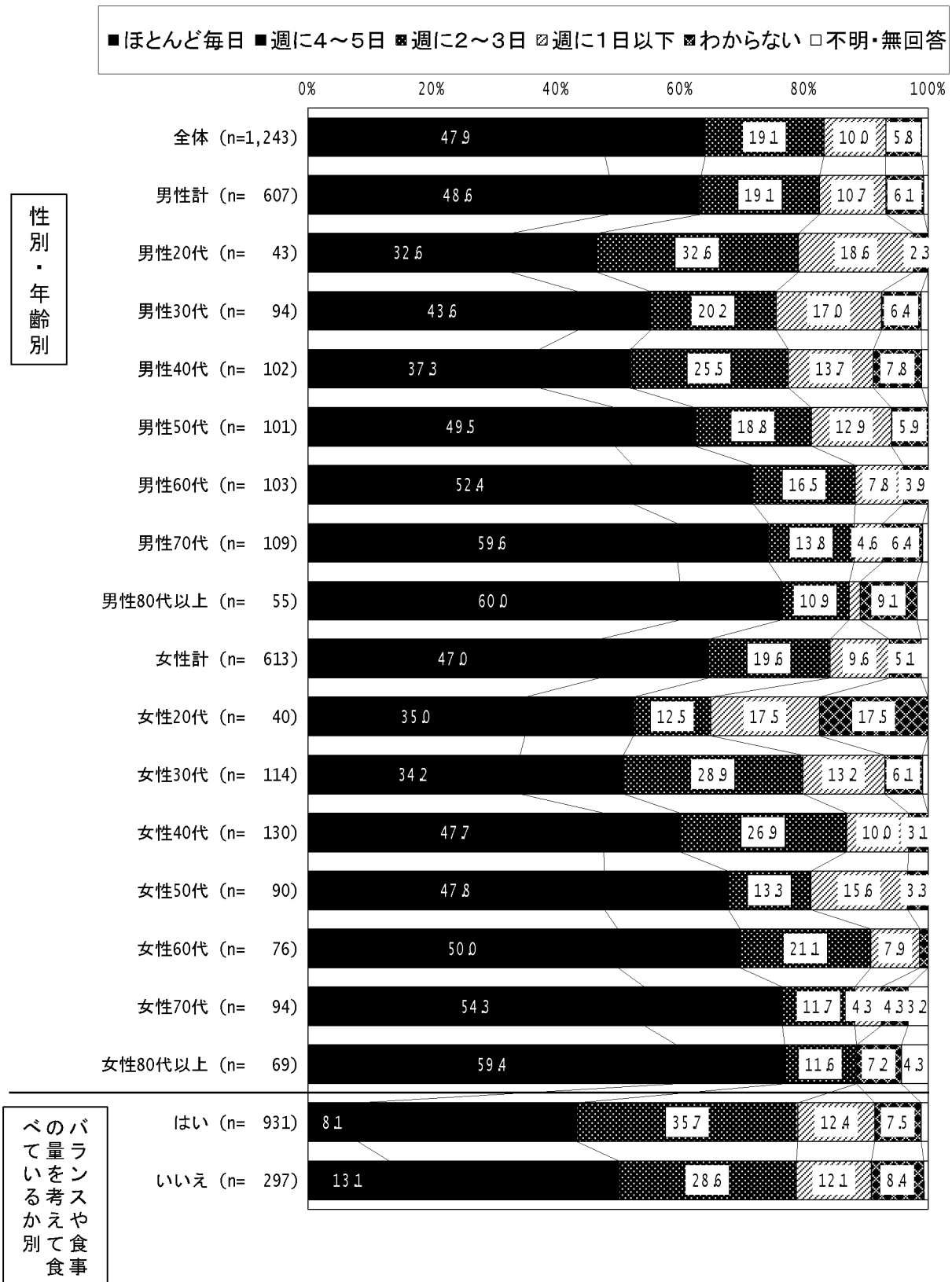
※1)主菜とは肉・魚・卵・大豆製品を使ったメインとなる料理のことです。  
※2)副菜とは野菜、きのこ、いも、海藻などを使った小鉢小皿料理のことです。



主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度は、「ほとんど毎日」が47.9%と最も多く、次いで「週に2~3日」(19.1%)、「週に4~5日」(16.2%)、「週に1日以下」(10.0%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「ほとんど毎日」は年齢が上がるにつれて多くなる傾向があり、男性、女性ともに60代以上で5割以上となっている。

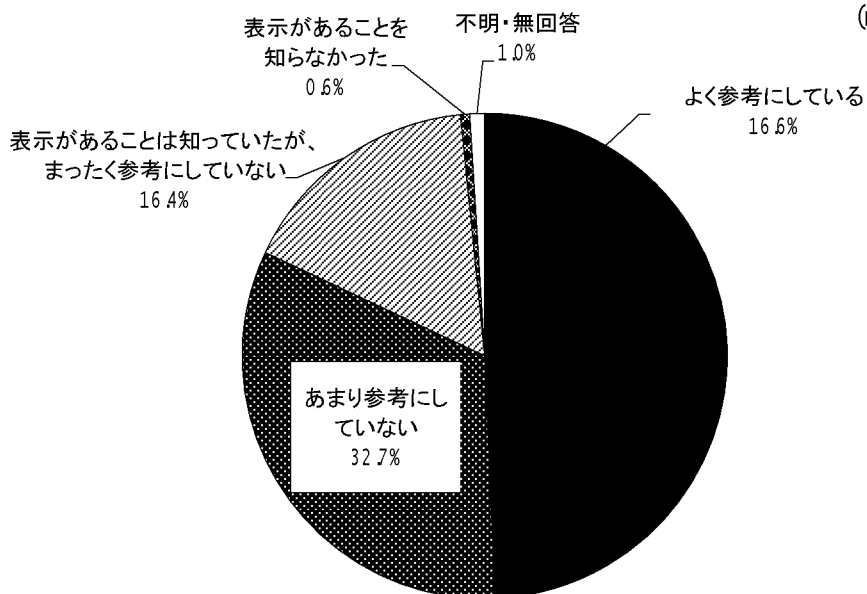
＜性別・年齢別・「バランスや食事の量を考えて食べているか」別  
主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度＞



## 栄養成分の表示を参考にしているか

問11. あなたは、外食時や食品を購入するときに、エネルギーや塩分などの栄養成分の表示を参考にしていますか。 (○は1つ)

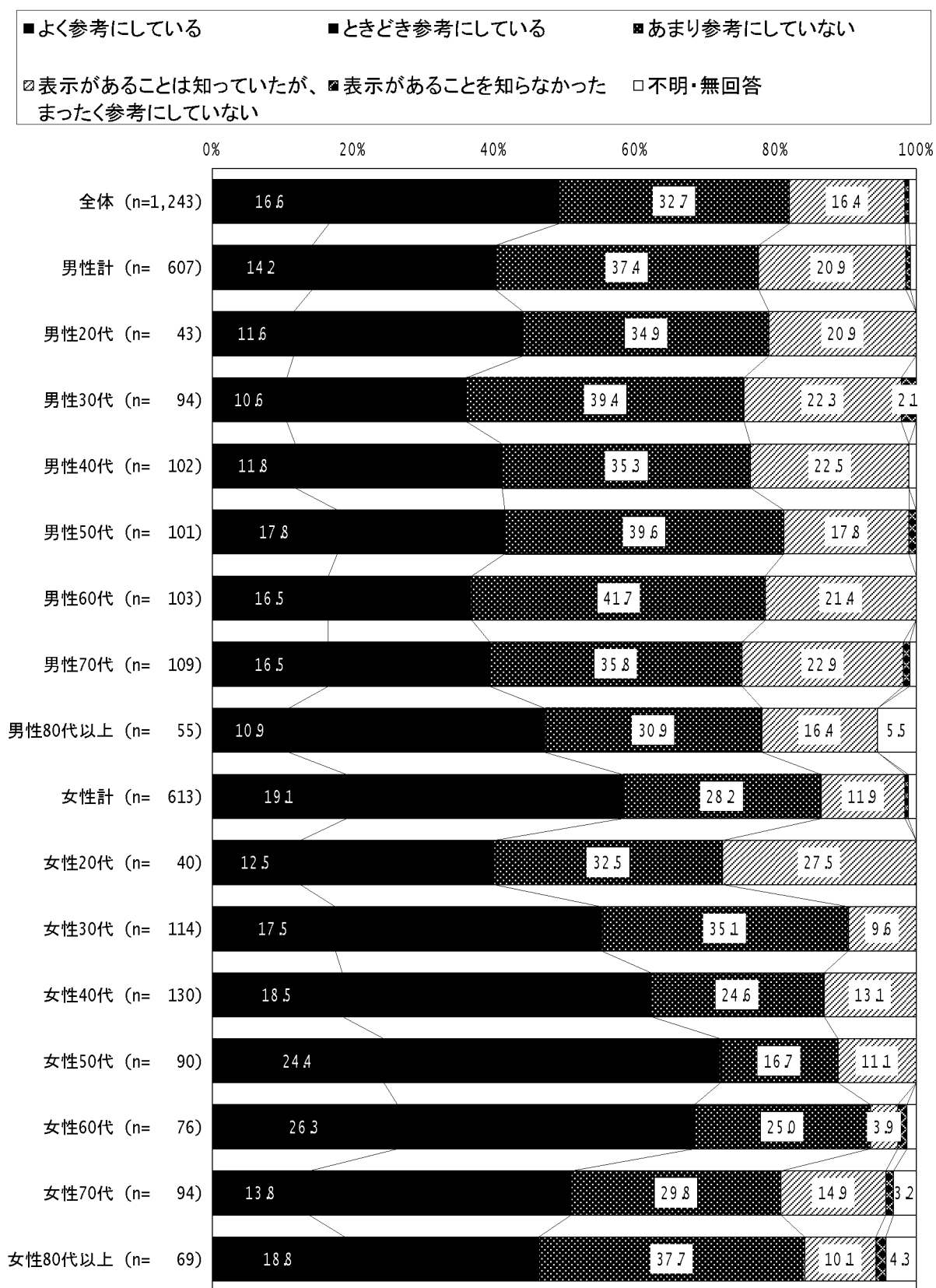
(n=1,243)



栄養成分の表示を参考にしているかたずねたところ、「ときどき参考にしている」と「あまり参考にしていない」がそれぞれ32.7%と最も多く、次いで「よく参考にしている」(16.6%)、「表示があることは知っていたが、まったく参考にしていない」(16.4%)の順が続いている。

性別にみると、「よく参考にしている」と「ときどき参考にしている」を合わせた『参考にしている』は、男性(40.2%)に比べて女性(58.3%)のほうが18.1ポイント高くなっている。

## <性別・年齢別 栄養成分の表示を参考にしているか>

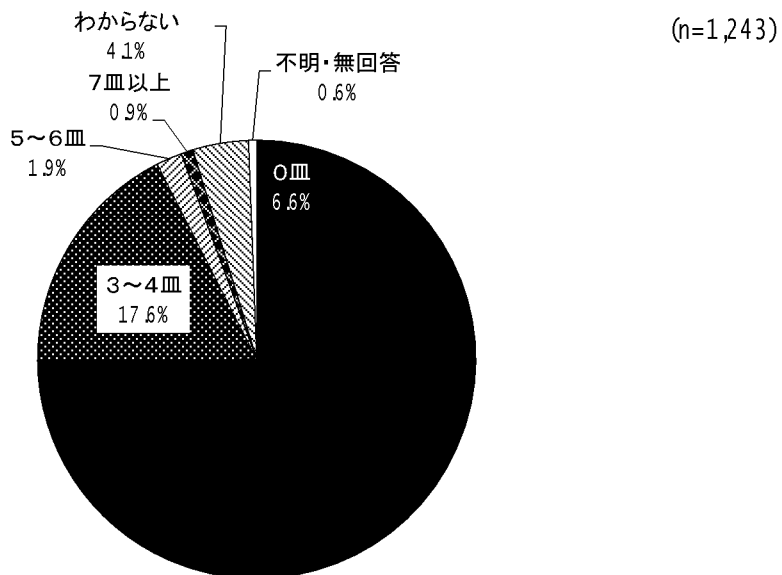


## 野菜を1日に何皿食べているか

問12. あなたは、野菜を1日に何皿<sup>※</sup> 食べていますか。

(○は1つ)

※) 野菜1皿の目安小鉢1個分(約70g)

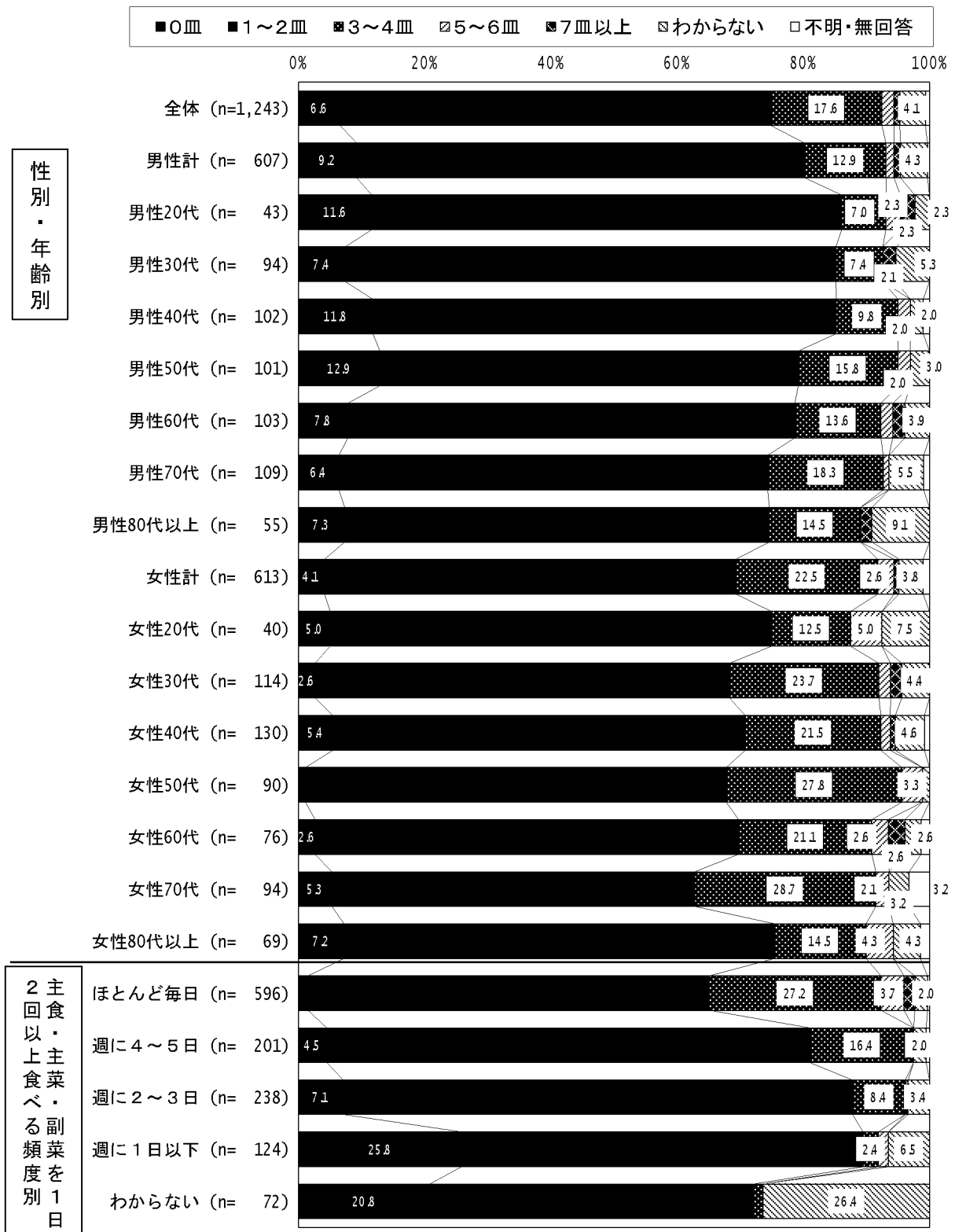


野菜を1日に何皿食べているかたずねたところ、「1~2皿」が68.3%と最も多く、次いで「3~4皿」(17.6%)、「0皿」(6.6%)の順が続いている。

性別でみると、「3~4皿」、「5~6皿」と「7皿以上」を合わせた『3皿以上』は、男性(15.2%)と比べて女性(25.9%)が10.7ポイント高くなっている。

「主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度」別にみると、主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度が高くなるほど、『3皿以上』が多くなり、「ほとんど毎日」では3割を超えている。

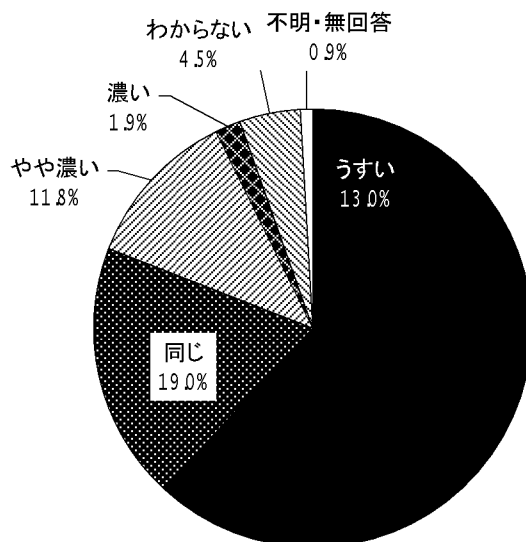
＜性別・年齢別・「主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度」別  
野菜を1日に何皿食べているか＞



## 家庭での味付けは外食と比べてどのような味付けか

問13. あなたの家庭での味付けは外食と比べてどのような味付けですか。 (○は1つ)

(n=1,243)

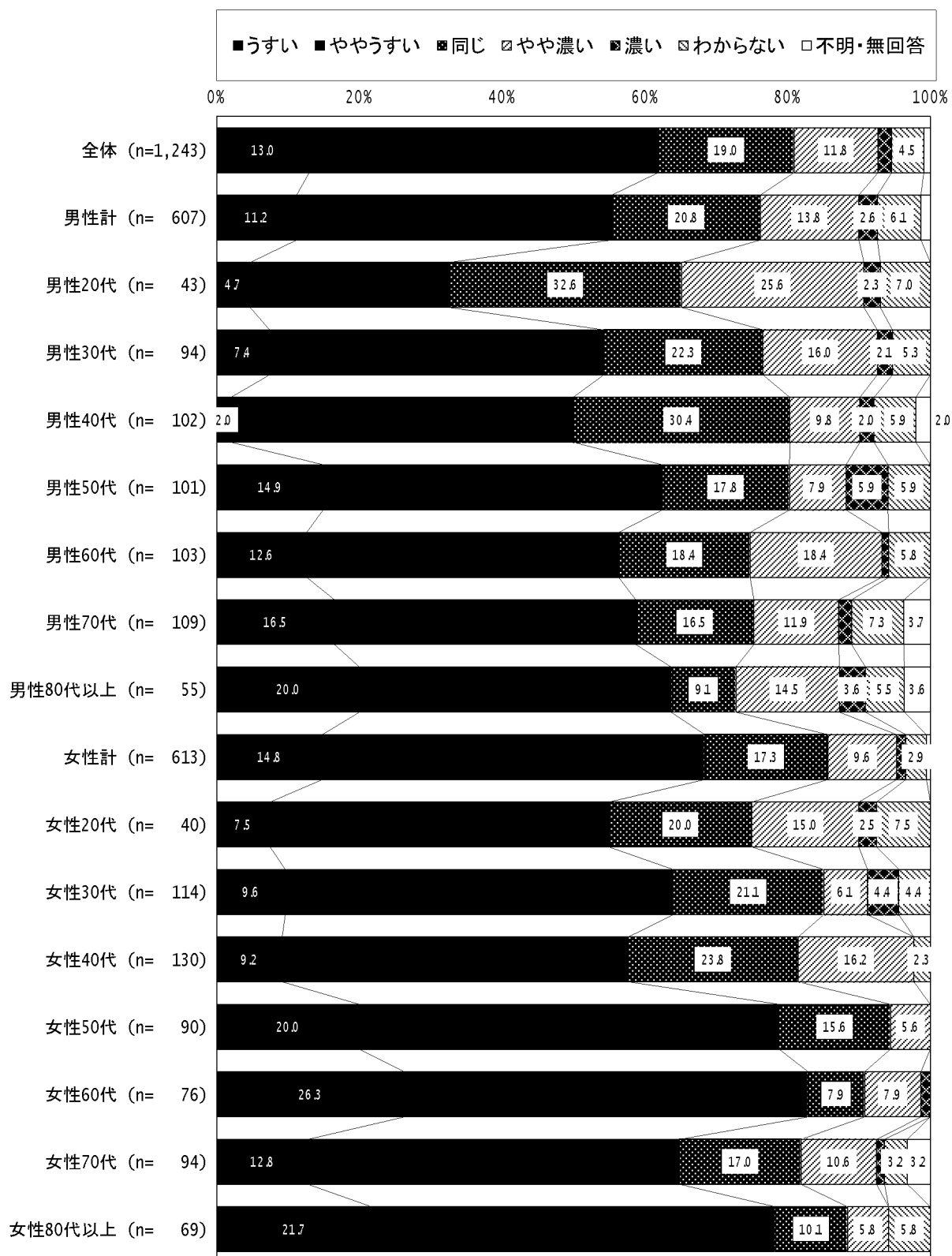


家庭での味付けは外食と比べてどのような味付けかたずねたところ、「ややうすい」が48.9%と最も多く、次いで「同じ」(19.0%)、「うすい」(13.0%)、「やや濃い」(11.8%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「うすい」と「ややうすい」を合わせた『うすい』は、女性60代で8割を超えて多くなっている一方、男性20代は4割を下回っている。



＜性別・年齢別 家庭での味付けは外食と比べてどのような味付けか＞

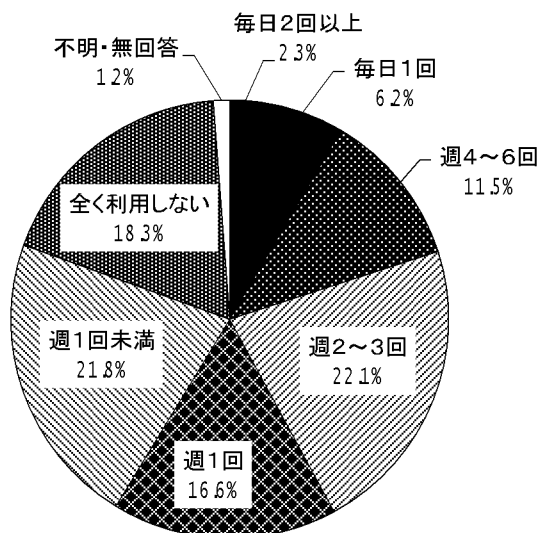


## 持ち帰りの弁当や総菜の利用頻度

問14. あなたは、持ち帰りの弁当や総菜をどのくらい利用していますか。

(○は1つ)

(n=1,243)



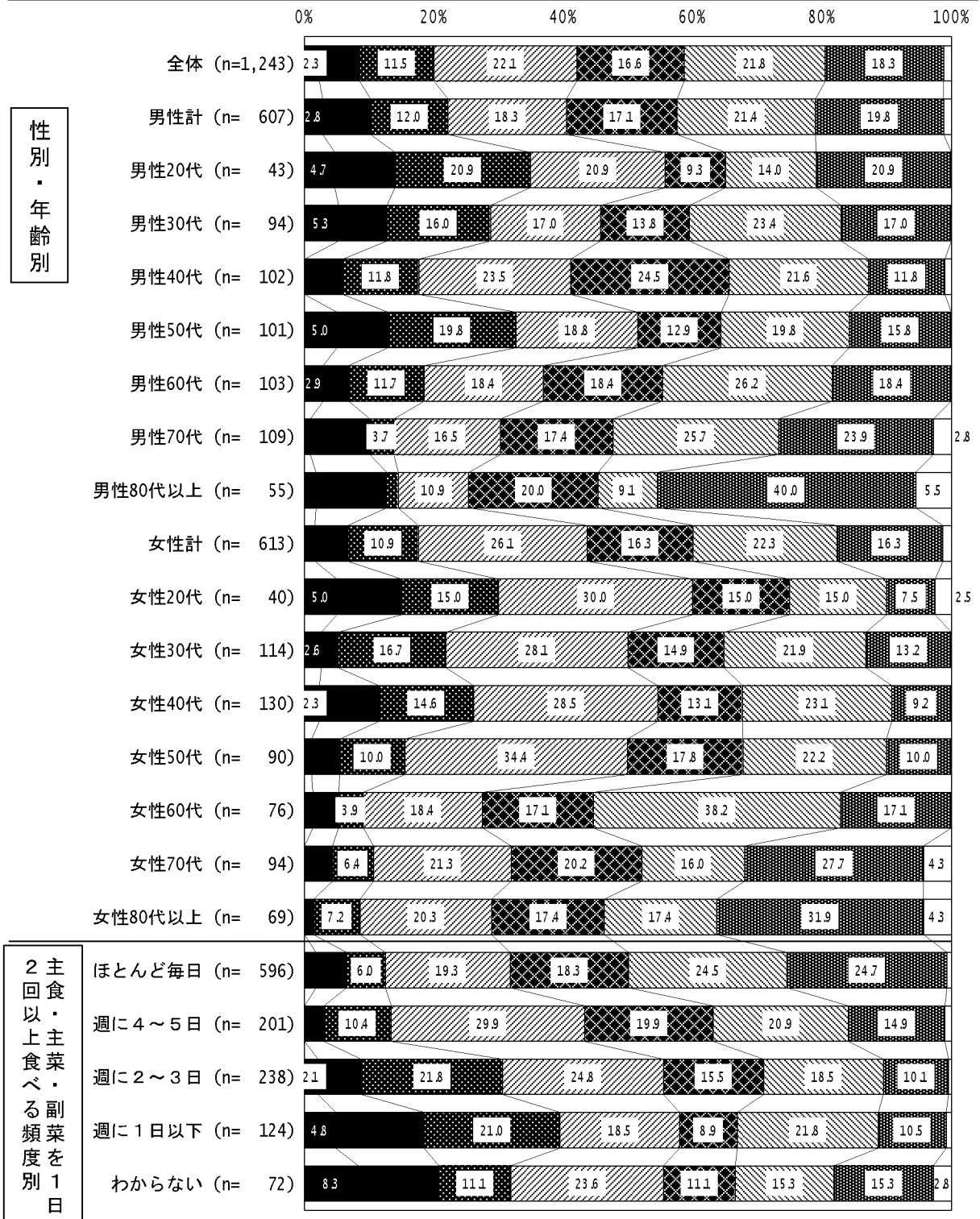
持ち帰りの弁当や総菜の利用頻度は、「週2~3回」が22.1%と最も多く、次いで「週1回未満」(21.8%)、「全く利用しない」(18.3%)、「週1回」(16.6%)、「週4~6回」(11.5%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「全く利用しない」は男女とも80代以上で3割を超えて多くなっている。「毎日2回以上」と「毎日1回」と「週4~6回」を合わせた『週4回以上』は、男性20代と50代、女性20代で3割以上と、他の性・年齢と比べて多くなっている。

「主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度」別にみると、主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度が低くなるほど、持ち帰りの弁当や総菜の利用頻度が上昇している。

＜性別・年齢別・「主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる頻度」別  
持ち帰りの弁当や総菜の利用頻度＞

■毎日2回以上 ■毎日1回 ■週4～6回 ▨週2～3回 ■週1回 ▨週1回未満 ■全く利用しない □不明・無回答



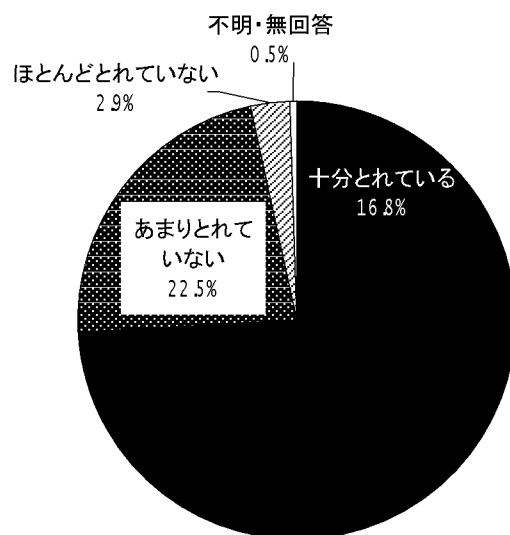
## (5) 心の健康について

### 心や身体の休養が十分にとれているか

問15. あなたは、心や身体の休養が十分にとれていますか。

(○は1つ)

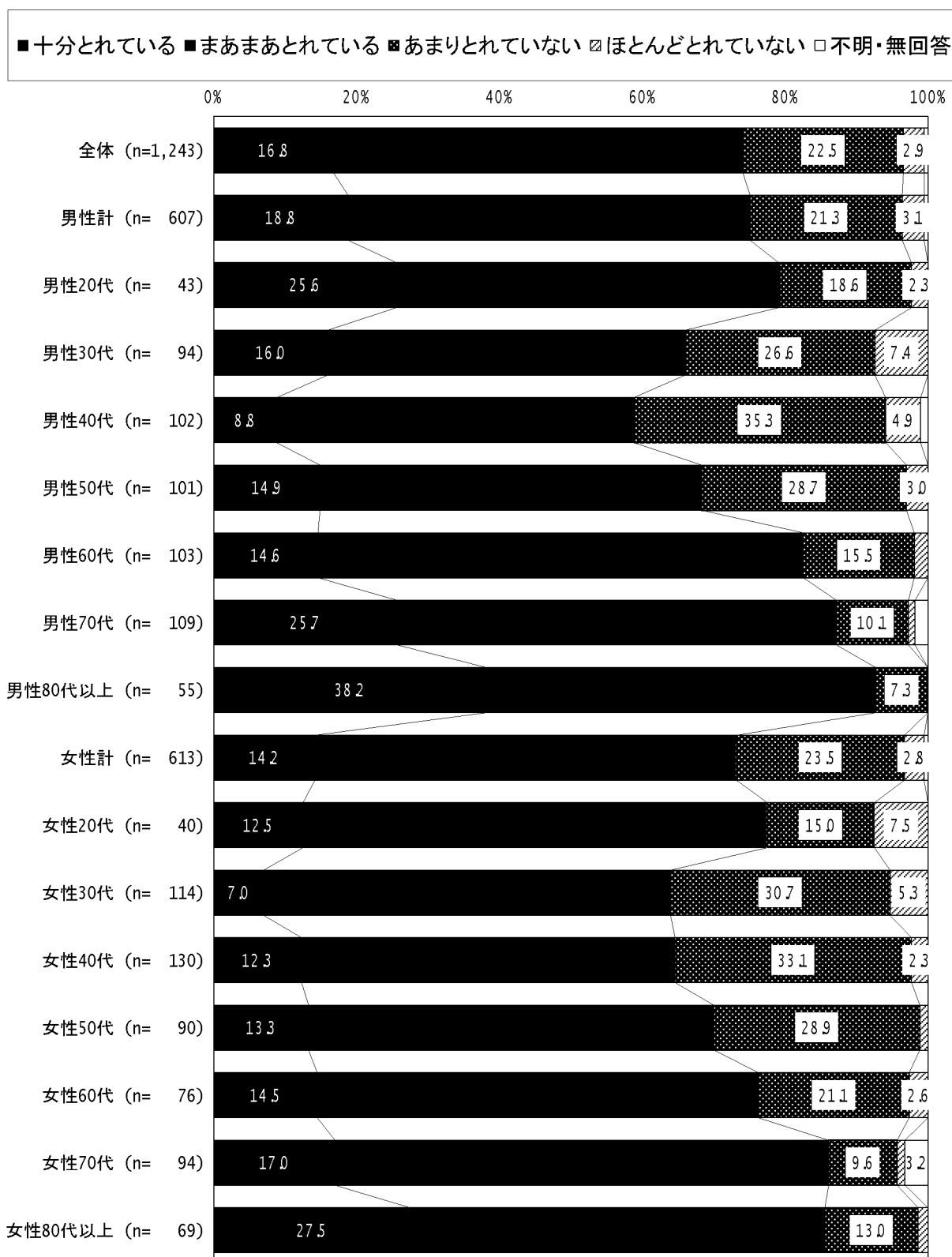
(n=1,243)



心や身体の休養が十分にとれているかたずねたところ、「まあまあとれている」が57.3%と最も多く、次いで「あまりとれていない」(22.5%)、「十分とれている」(16.8%)、「ほとんどとれていない」(2.9%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「十分とれている」と「まあまあとれている」を合わせた『とれている』は、男性では60代以上、女性では70代以上で8割を超えている。

## <性別・年齢別 心や身体の休養が十分にとれているか>

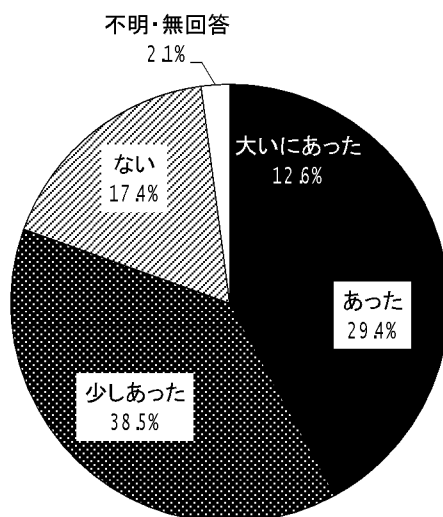


## この1か月間に不安などがあったか

問16-①. あなたは、この1か月間に日常生活で不安、悩み、ストレスなどがありましたか。

(○は1つ)

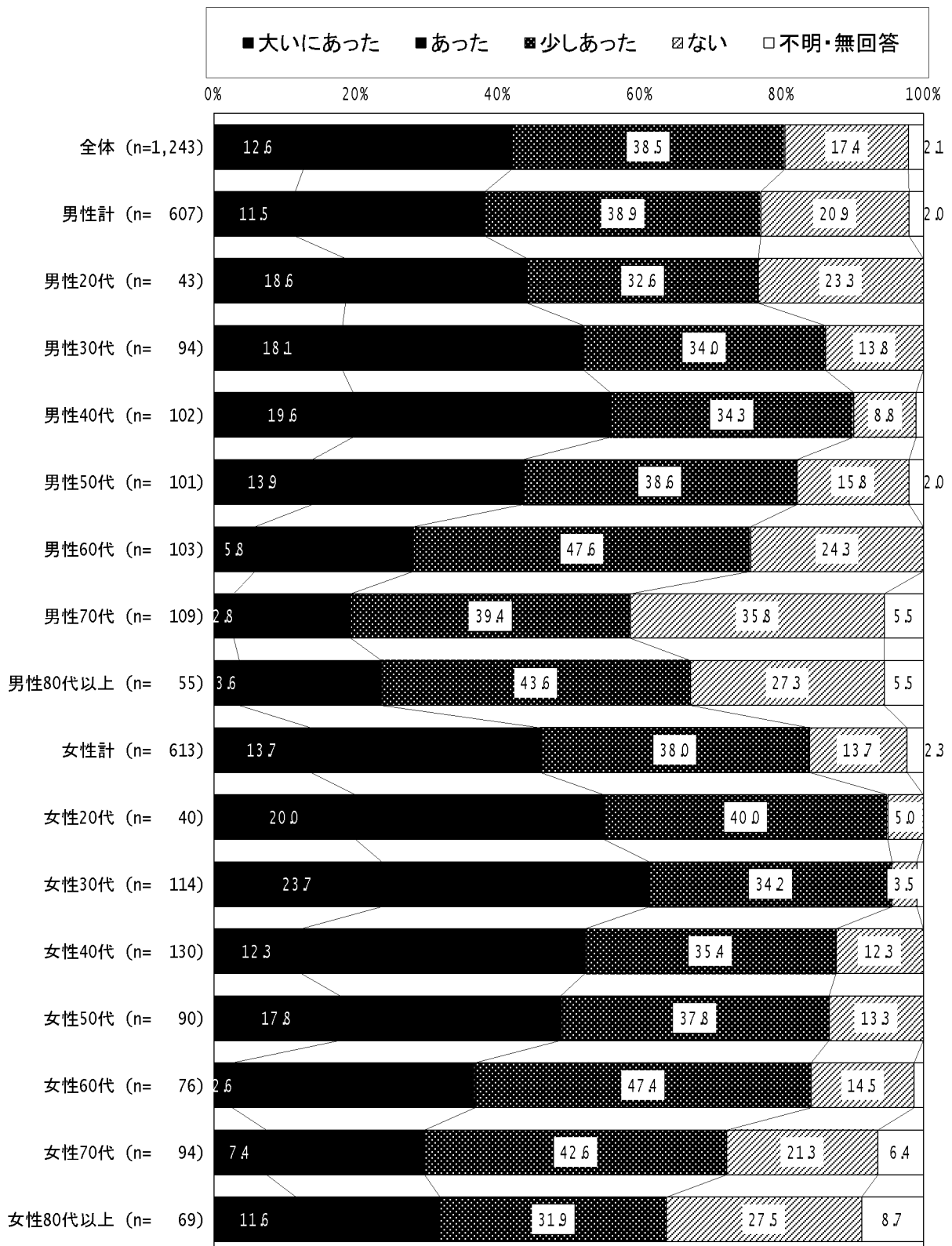
(n=1,243)



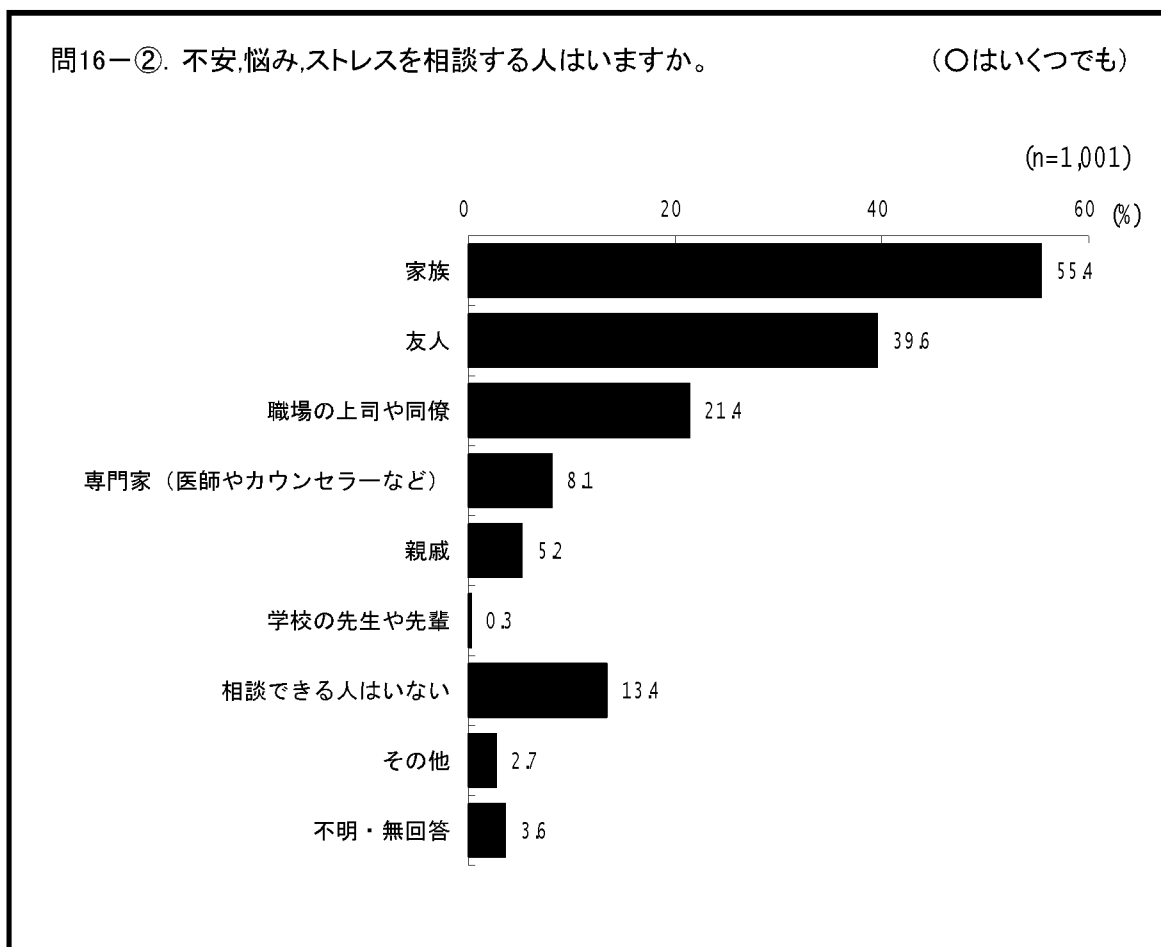
この1か月間に不安などがあったかたずねたところ、「少しあった」が38.5%と最も多く、次いで「あった」(29.4%)、「ない」(17.4%)、「大いにあった」(12.6%)の順に続いている。

性別・年齢別にみると、「大いにあった」、「あった」と「少しあった」を合わせた『あった』は、男性40代と女性20～30代で9割を超え多くなっている。

<性別・年齢別 この1か月間に不安などがあったか>



## 不安などを相談する人

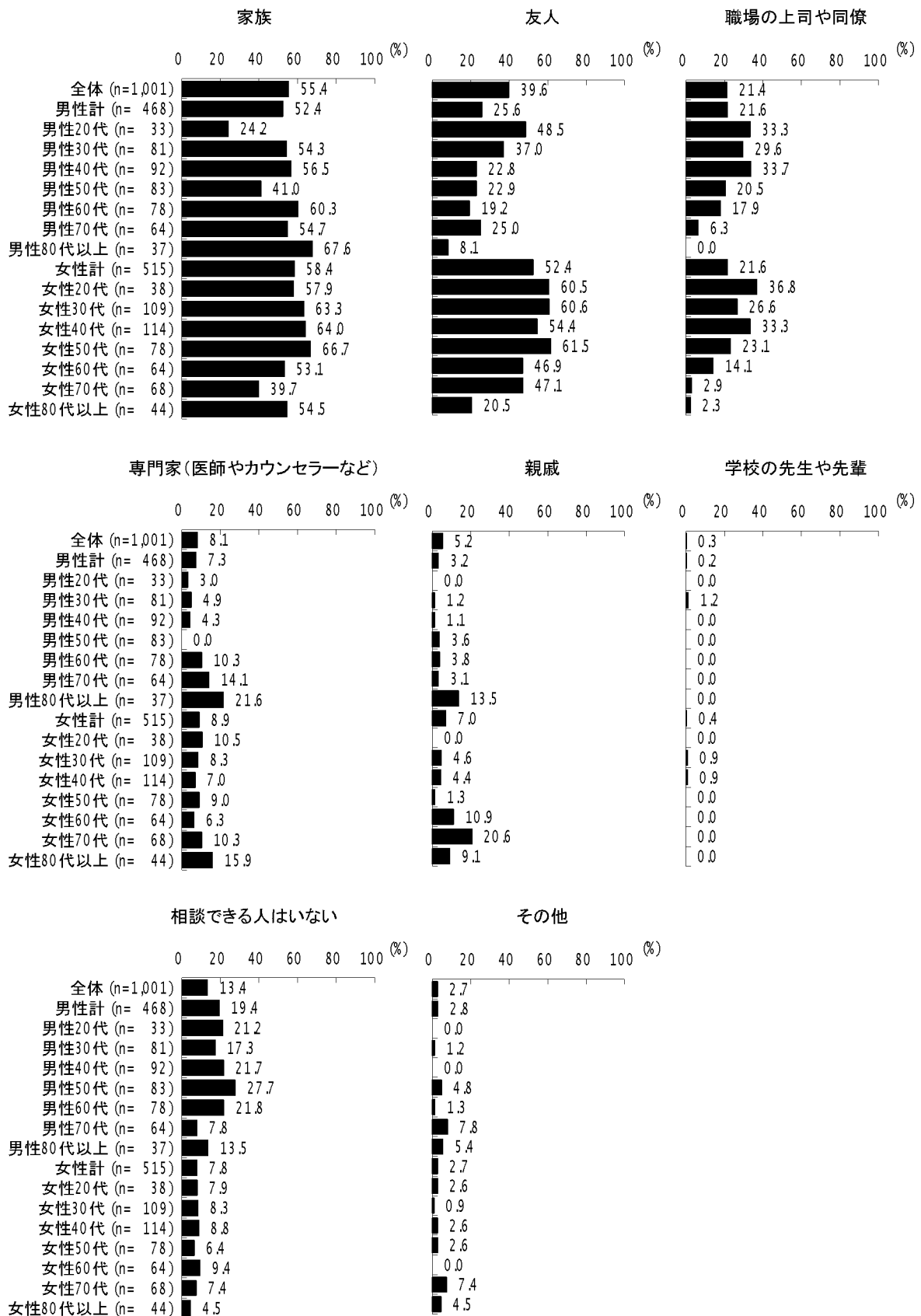


この1か月間に日常生活で不安などがあつたと回答した人に、相談する人についてたずねたところ、「家族」が55.4%と最も多く、次いで「友人」(39.6%)、「職場の上司や同僚」(21.4%)、「相談できる人はいない」(13.4%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「家族」は男性では60代と80代以上、女性では30代～50代で6割を超えて多くなっている一方、男性20代で3割を下回っている。「友人」は男性(25.6%)に比べて女性(52.4%)のほう26.8ポイント高くなっており、男女とも年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がある。



## <性別・年齢別 不安などを相談する人>

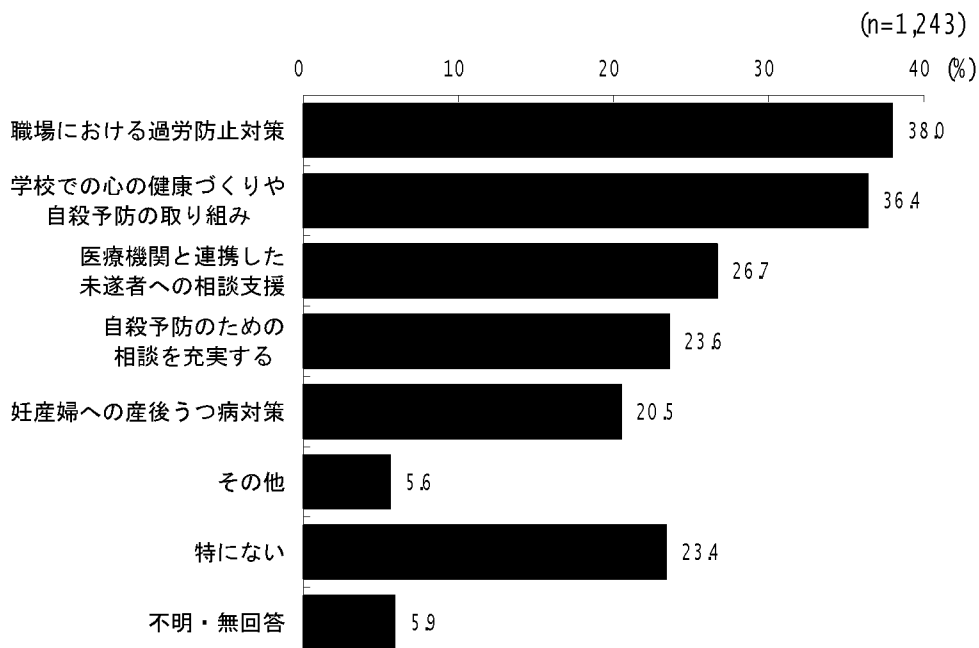


## 自殺予防のため区として力を入れてほしいこと

問17. 区は自殺予防のため、相談体制の充実、ネットワークづくりなどを実施しています。

あなたは、今後、どのような対策、取り組みを区として力を入れてほしいと思いますか。

(〇はいくつでも)



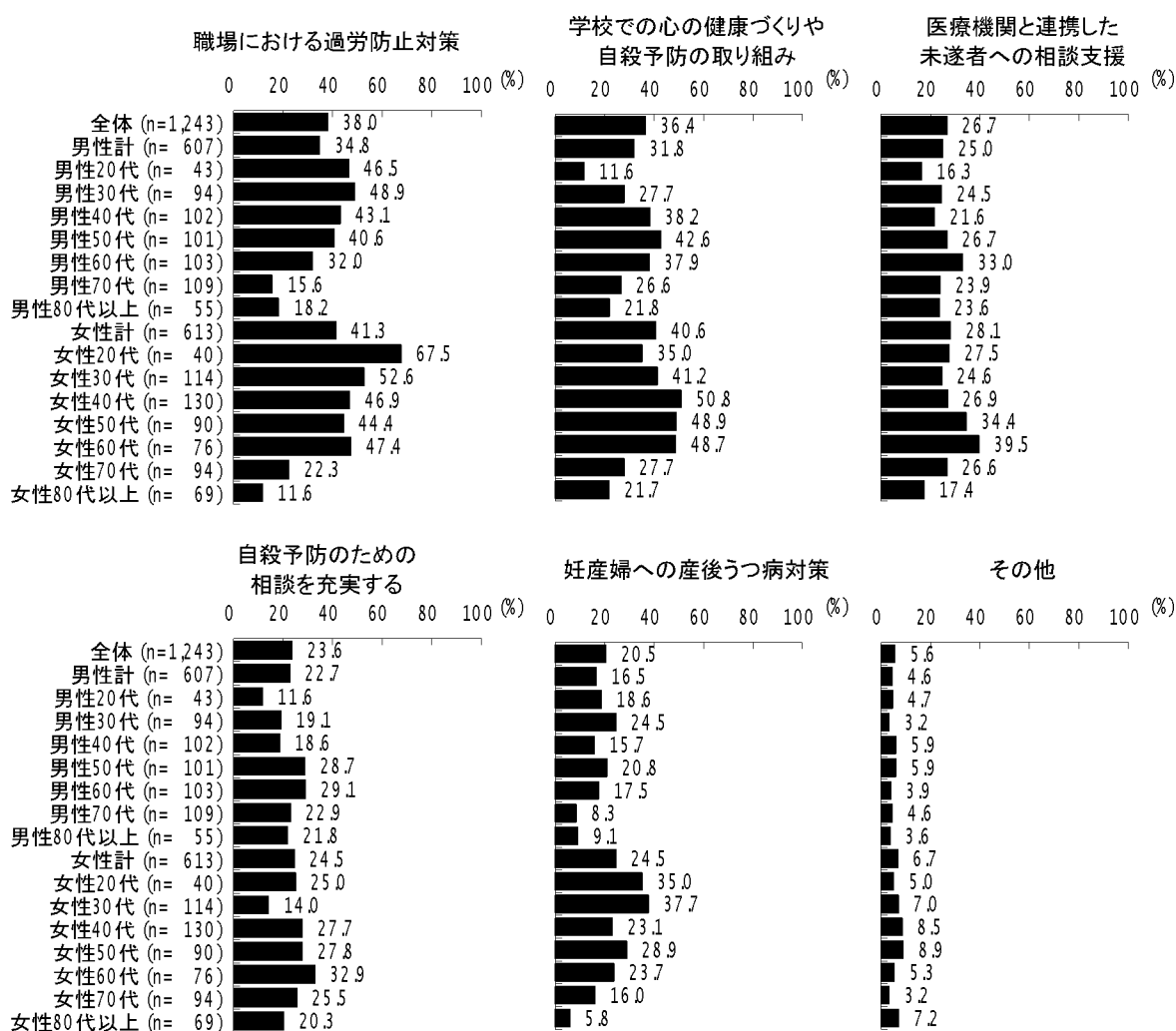
自殺予防のため区として力を入れてほしいことは、「職場における過労防止対策」が38.0%と最も多く、次いで「学校での心の健康づくりや自殺予防の取り組み」(36.4%)、「医療機関と連携した未遂者への相談支援」(26.7%)、「自殺予防のための相談を充実する」(23.6%)、「特にない」(23.4%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「職場における過労防止対策」は、女性では年齢が下がるにつれて多くなる傾向があり、女性30代以下では5割を超えている。「学校での心の健康づくりや自殺予防の取り組み」は女性40代で5割を超えて多くなっている。

職業の有無別にみると、「職場における過労防止対策」では、『職業有』(44.2%)の方が『職業無』(22.8%)に比べて多くなっている。

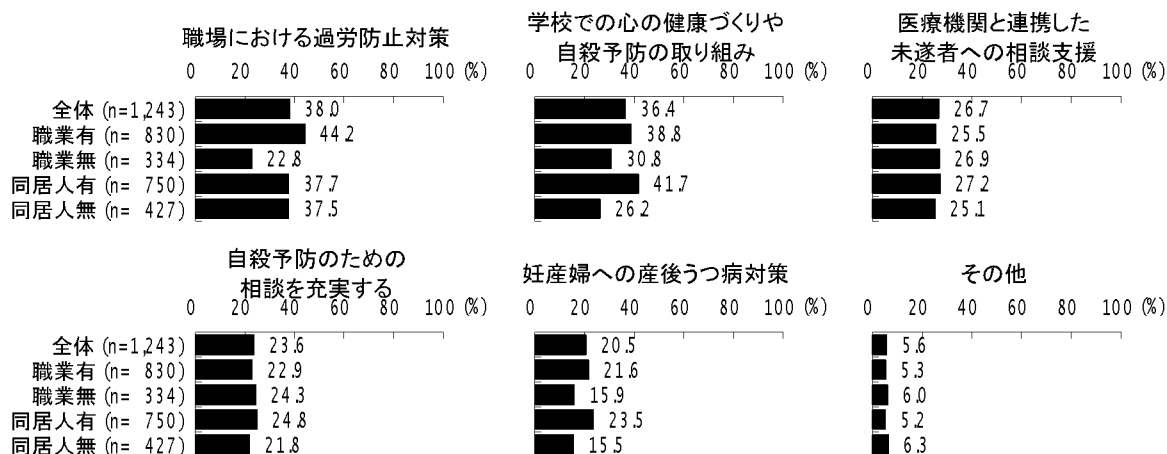
同居人の有無別にみると、「学校での心の健康づくりや自殺予防の取り組み」では、『同居人有』(41.7%)の方が『同居人無』(26.2%)に比べて多くなっている。

## <性別・年齢別 自殺予防のため区として力を入れてほしいこと(上位6項目)>



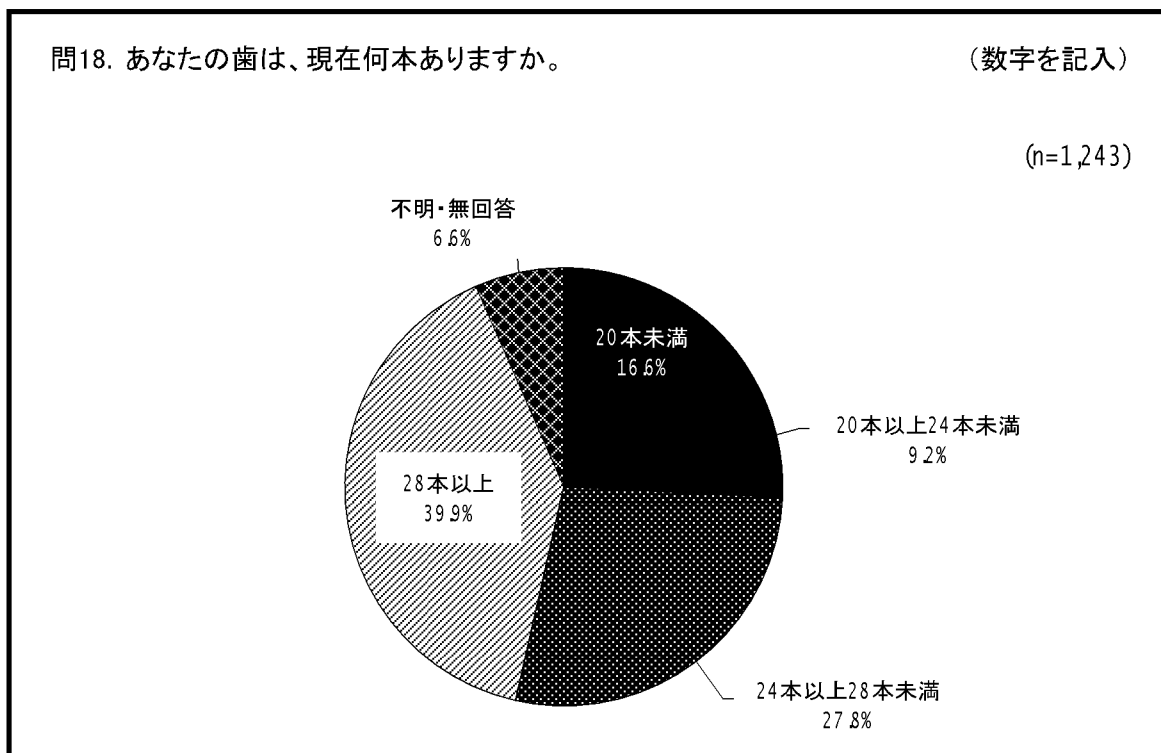
## <職業の有無別・同居人の有無別

### 自殺予防のため区として力を入れてほしいこと(上位6項目)>



## (6) 歯と口の健康について

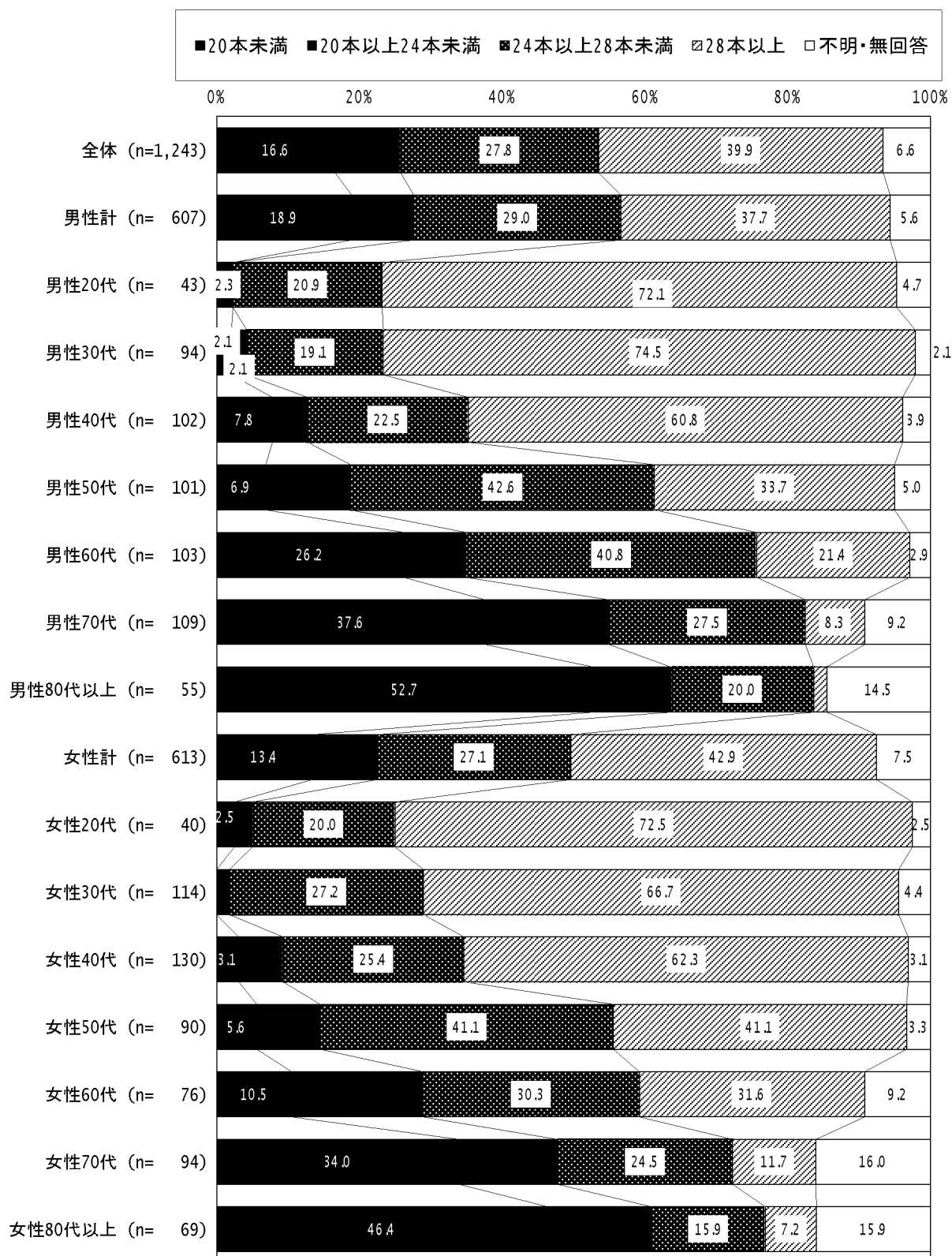
### 歯の本数



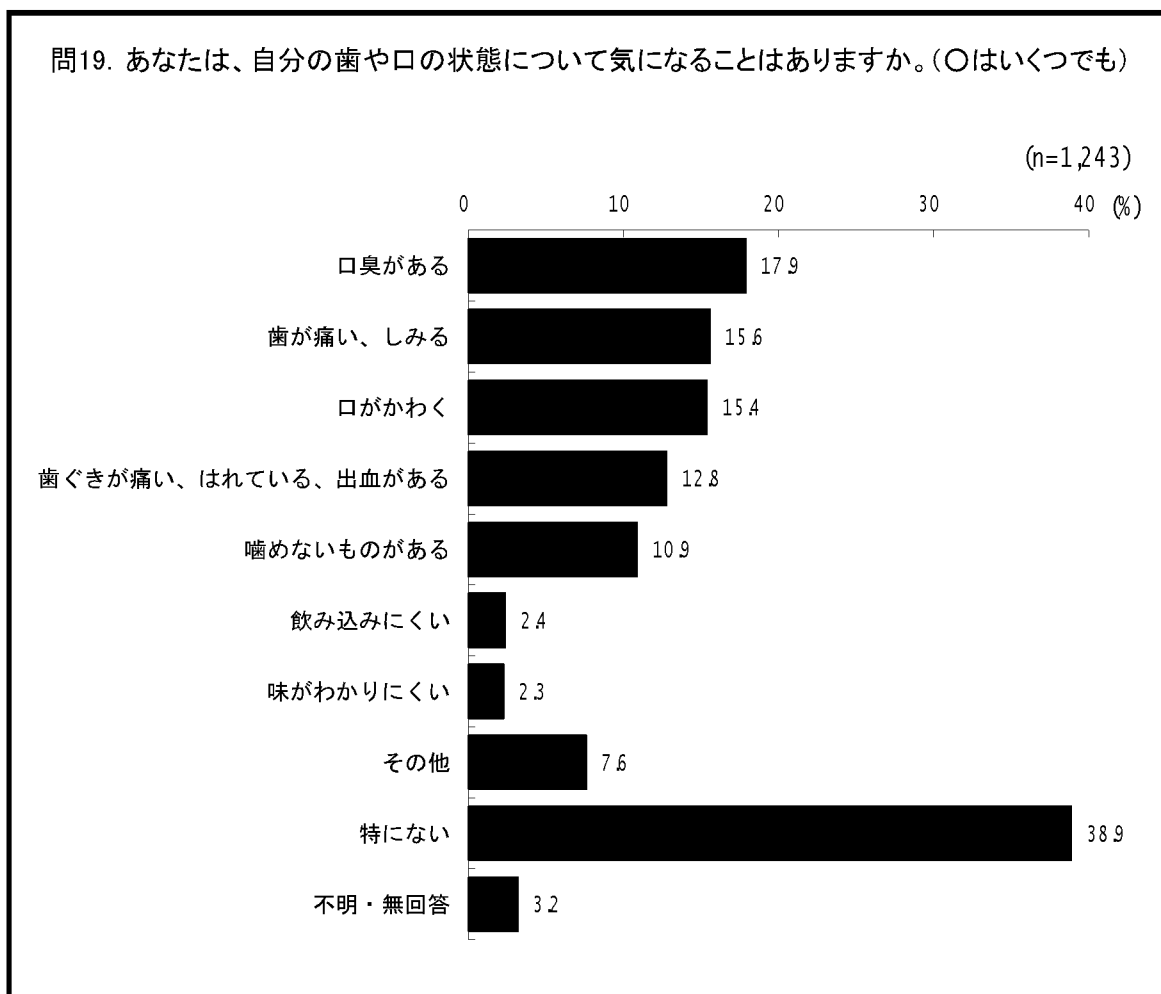
歯の本数は、「28本以上」が39.9%と最も多く、次いで「24本以上28本未満」(27.8%)、「20本未満」(16.6%)、「20本以上24本未満」(9.2%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「28本以上」は男性(37.7%)と比べて女性(42.9%)のほうが5.2ポイント高くなっており、年齢が上がるほど少なくなる傾向がある。

## <性別・年齢別 歯の本数>



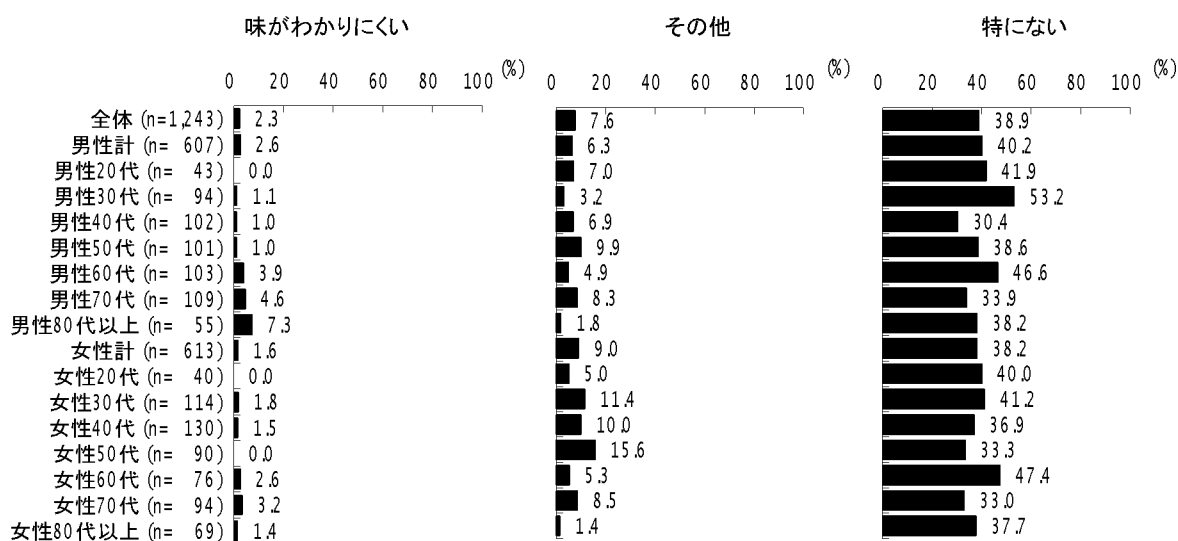
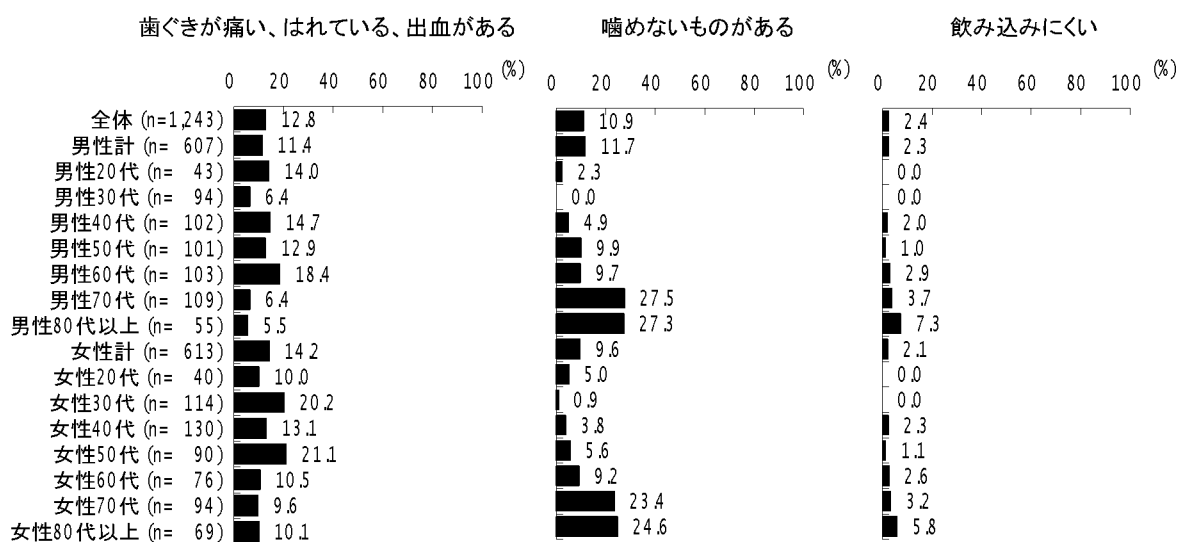
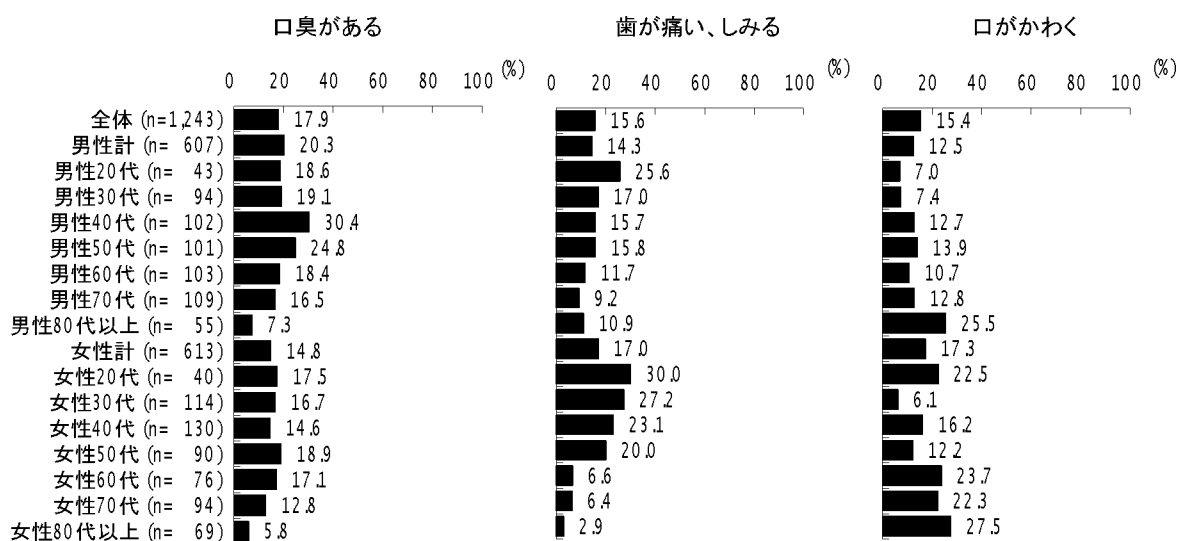
## 歯や口の状態について気になること



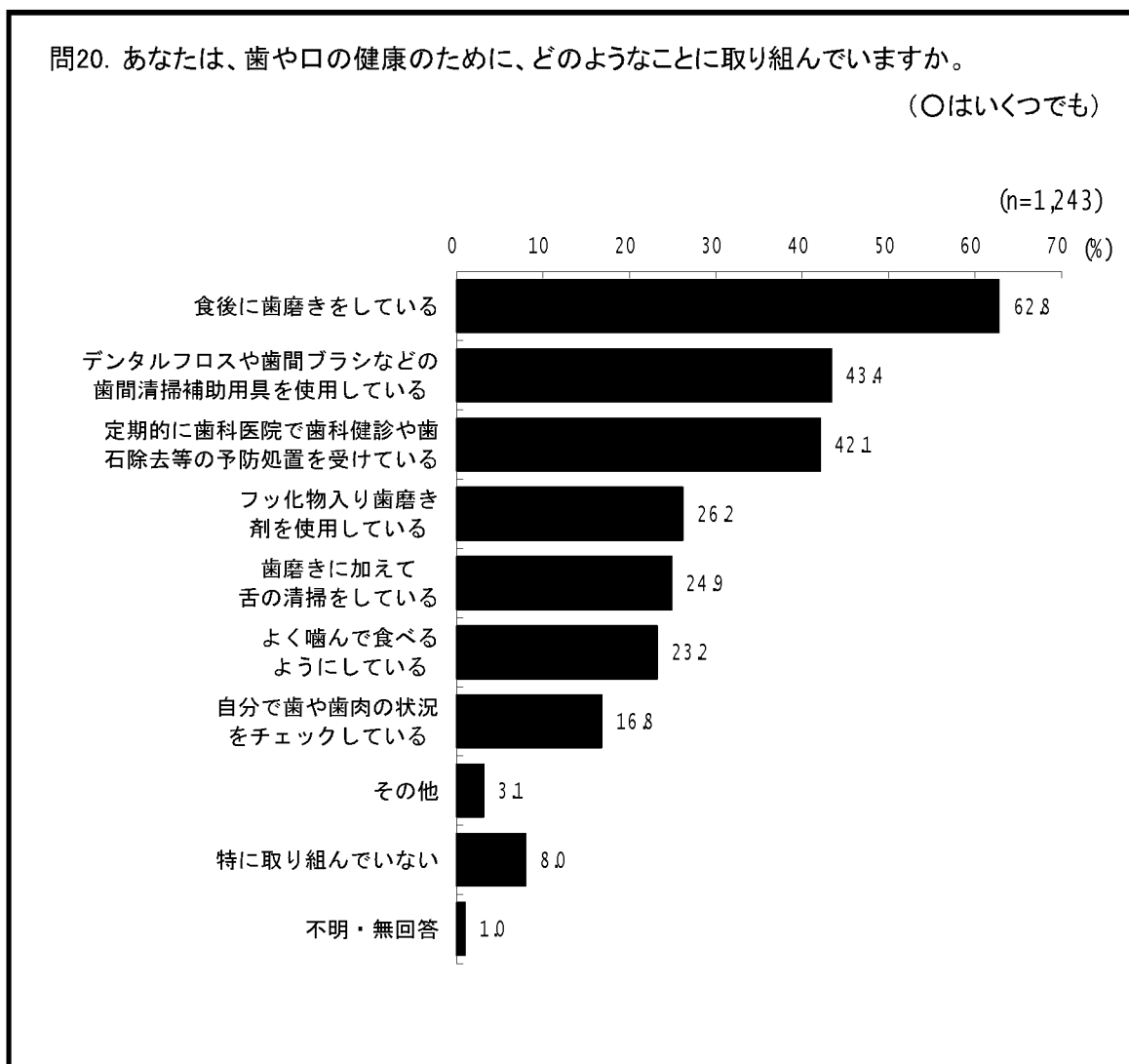
歯や口の状態について気になることは、「特にない」が38.9%と最も多く、次いで「口臭がある」(17.9%)、「歯が痛い、しみる」(15.6%)、「口がかわく」(15.4%)の順に続いている。

性別・年齢別にみると、「口臭がある」は男性40代で3割を超えている一方、男女とも80代以上で1割を下回っている。「特にない」は男性30代で5割を超えて多くなっている。女性の20代、30代で「歯が痛い、しみる」が3割に近く他の性、年齢より多い傾向となっている。

## <性別・年齢別 歯や口の状態について気になること>



## 歯や口の健康のために取り組んでいること



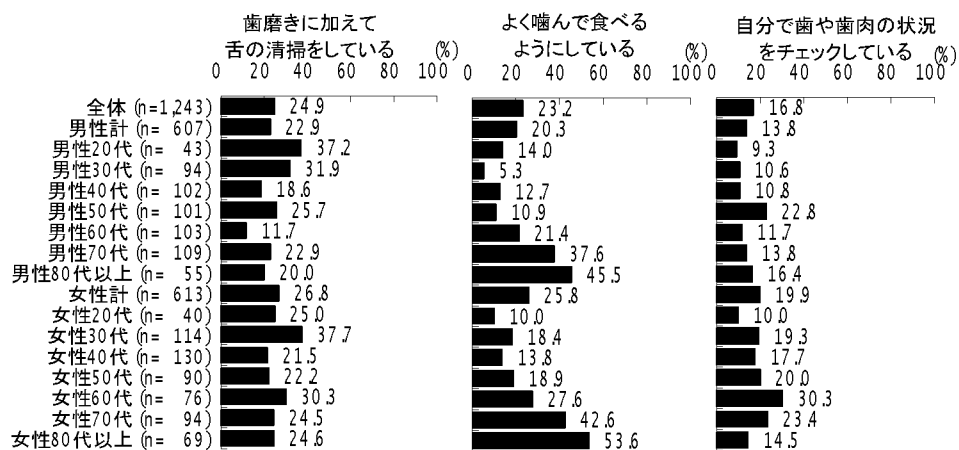
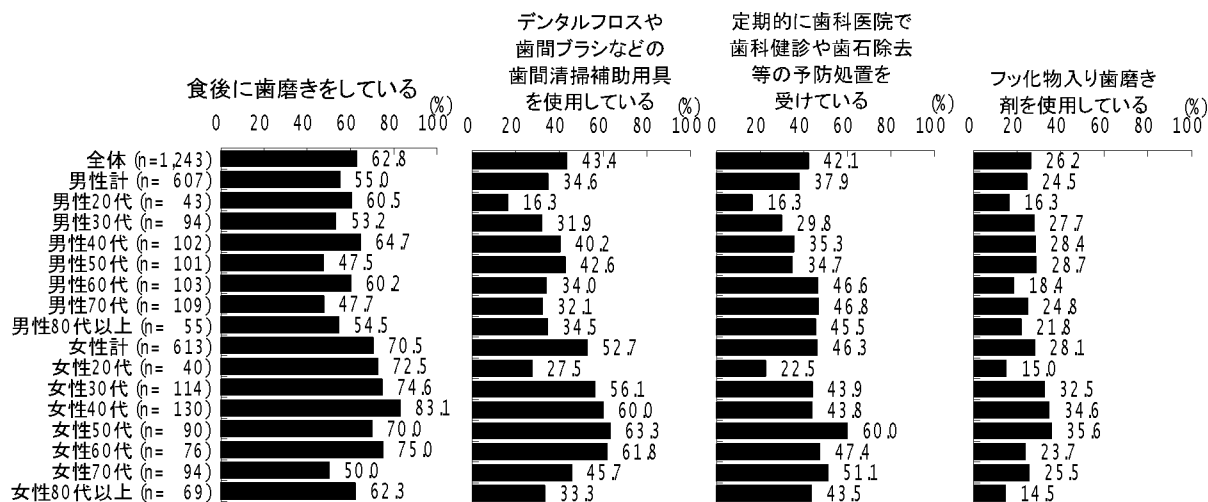
歯や口の健康のために取り組んでいることは、「食後に歯磨きをしている」が62.8%と最も多く、次いで「デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間清掃補助用具を使用している」(43.4%)、「定期的に歯科医院で歯科健診や歯石除去等の予防処置を受けている」(42.1%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「食後に歯磨きをしている」は男性(55.0%)より女性(70.5%)のほうが15.5ポイント高くなっている。「デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間清掃補助用具を使用している」は、女性40代~60代で6割以上と、他の性・年代と比較して多くなっている。20代の男女、および女性に比べると男性は「デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間清掃補助用具を使用している」割合が低くなっている。

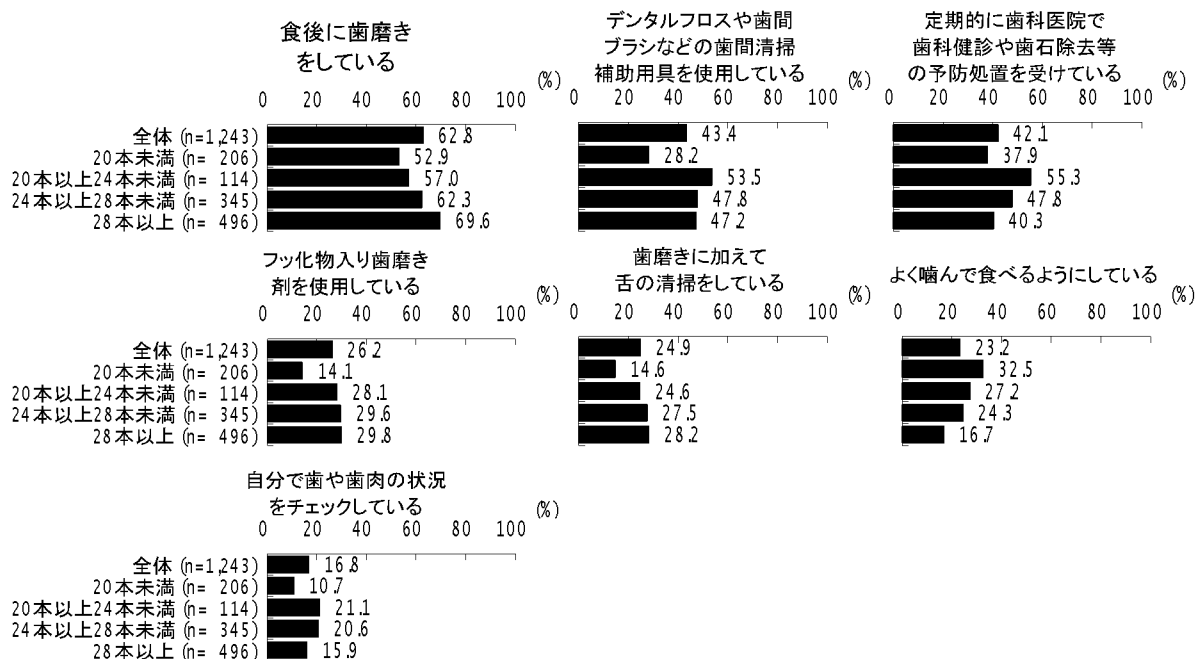
歯の本数別にみると、「食後に歯磨きをしている」は、歯の本数が多いほど割合が高くなり、『28本以上』では69.6%となっている。



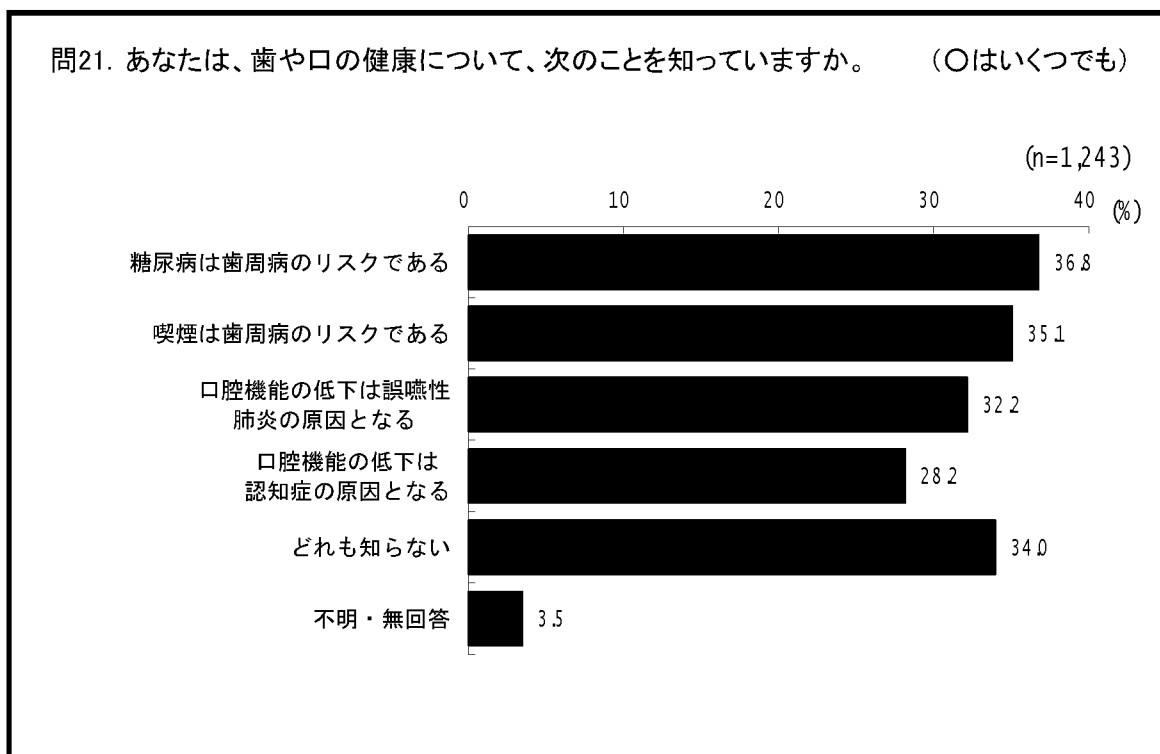
## <性別・年齢別 歯や口の健康のために取り組んでいること>



## <歯の本数別 歯や口の健康のために取り組んでいること>



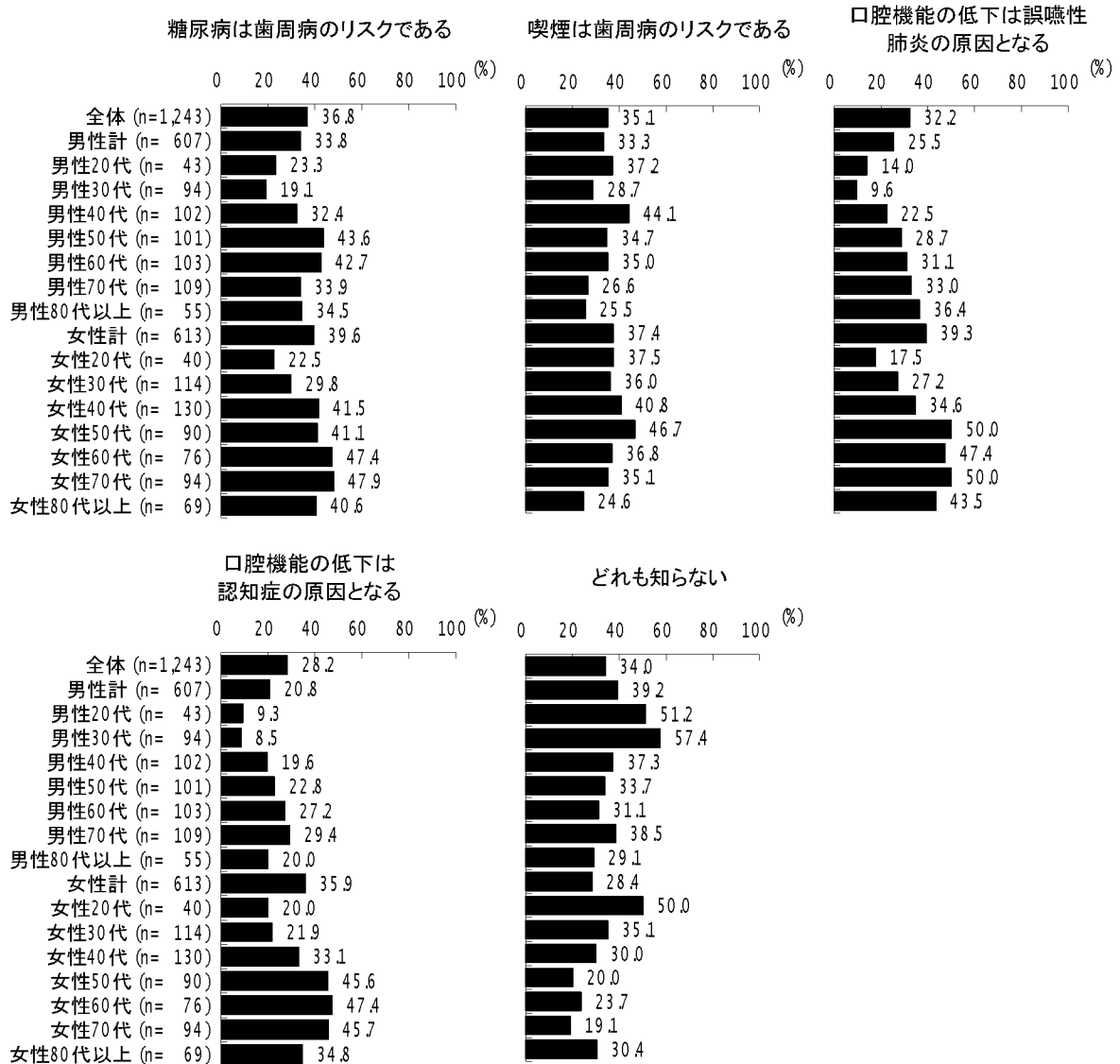
## 歯や口の健康についての認知状況



歯や口の健康についての認知状況は、「糖尿病は歯周病のリスクである」が36.8%と最も多く、次いで「喫煙は歯周病のリスクである」(35.1%)、「どれも知らない」(34.0%)、「口腔機能の低下は誤嚥性肺炎の原因となる」(32.2%)の順が続いている。

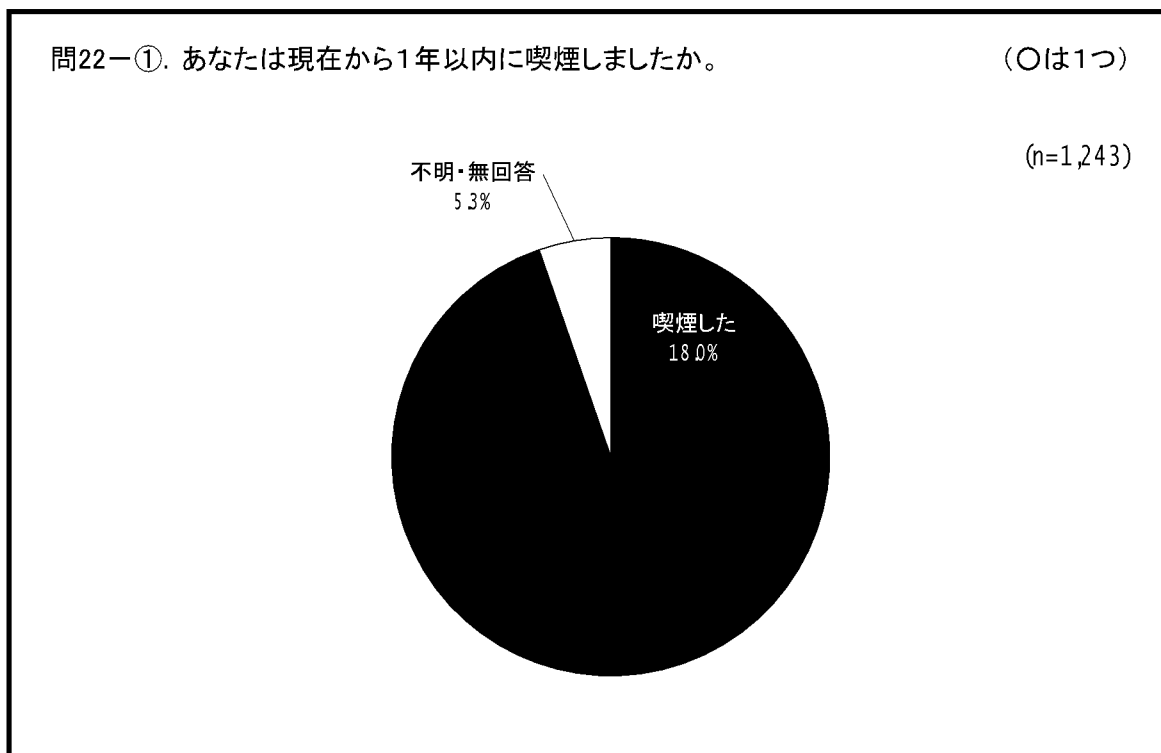
性別・年齢別にみると、「糖尿病は歯周病のリスクである」は男女とも20代～30代で3割を下回り少なくなっている。「喫煙は歯周病のリスクである」は、男性40代と女性40代～50代で4割を超え、「どれも知らない」は男性20代～30代、女性20代で5割以上と、他の性・年齢に比べてそれぞれ多くなっている。

## <性別・年齢別 歯や口の健康についての認知状況>



## (7) 喫煙について

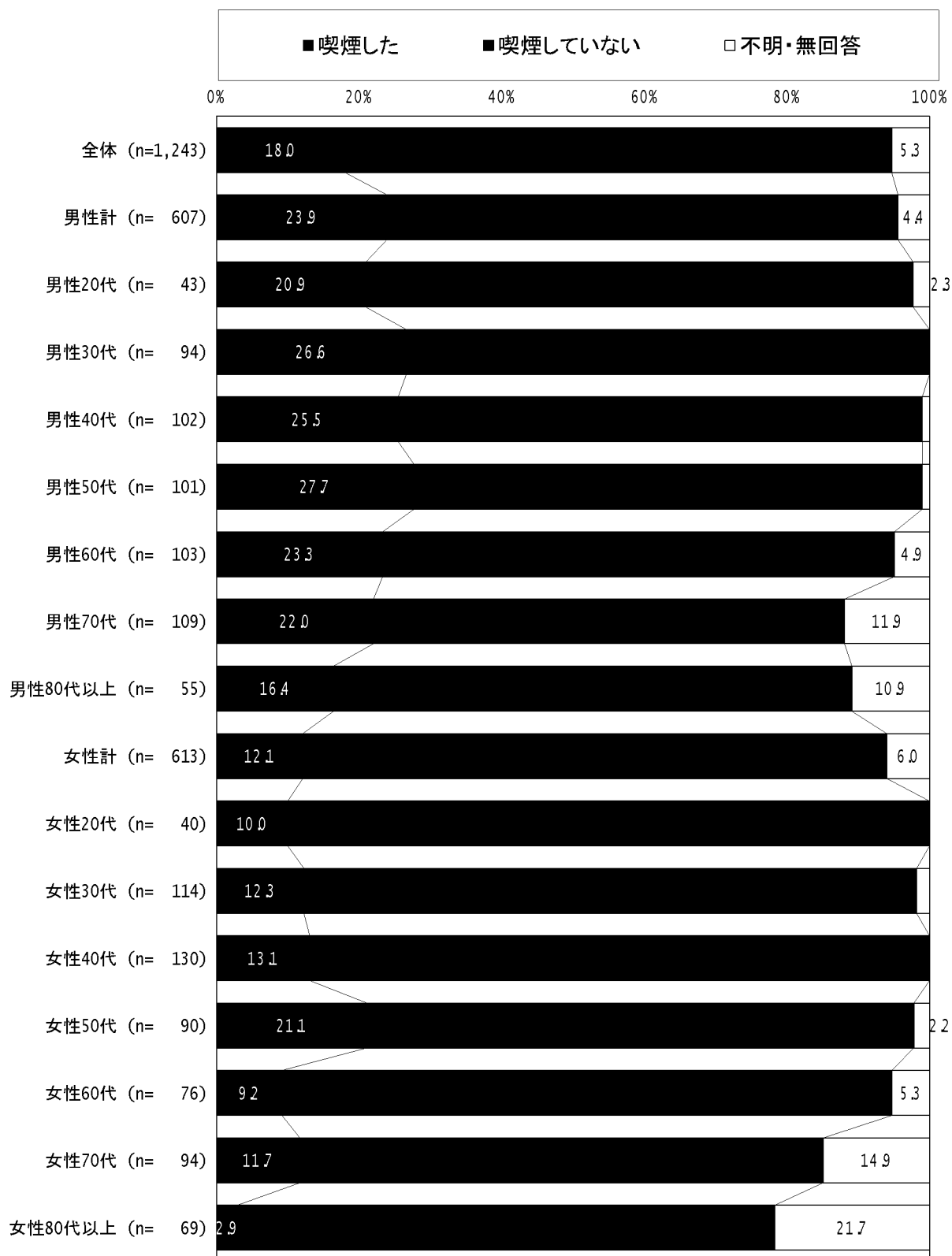
### 1年以内の喫煙の有無



1年以内の喫煙の有無は、「喫煙していない」が76.7%、「喫煙した」が18.0%となっている。

性別・年齢別にみると、「喫煙した」は女性（12.1%）に比べて男性（23.9%）が11.8ポイント高くなっている。

<性別・年齢別 1年以内の喫煙の有無>

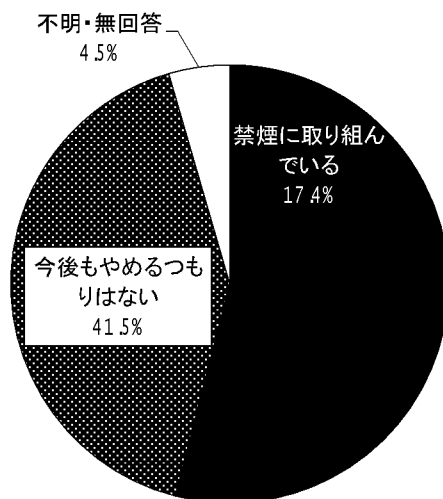


## 禁煙への取り組み状況

問22-②. あなたの現在の喫煙状況はどれですか。

(○は1つ)

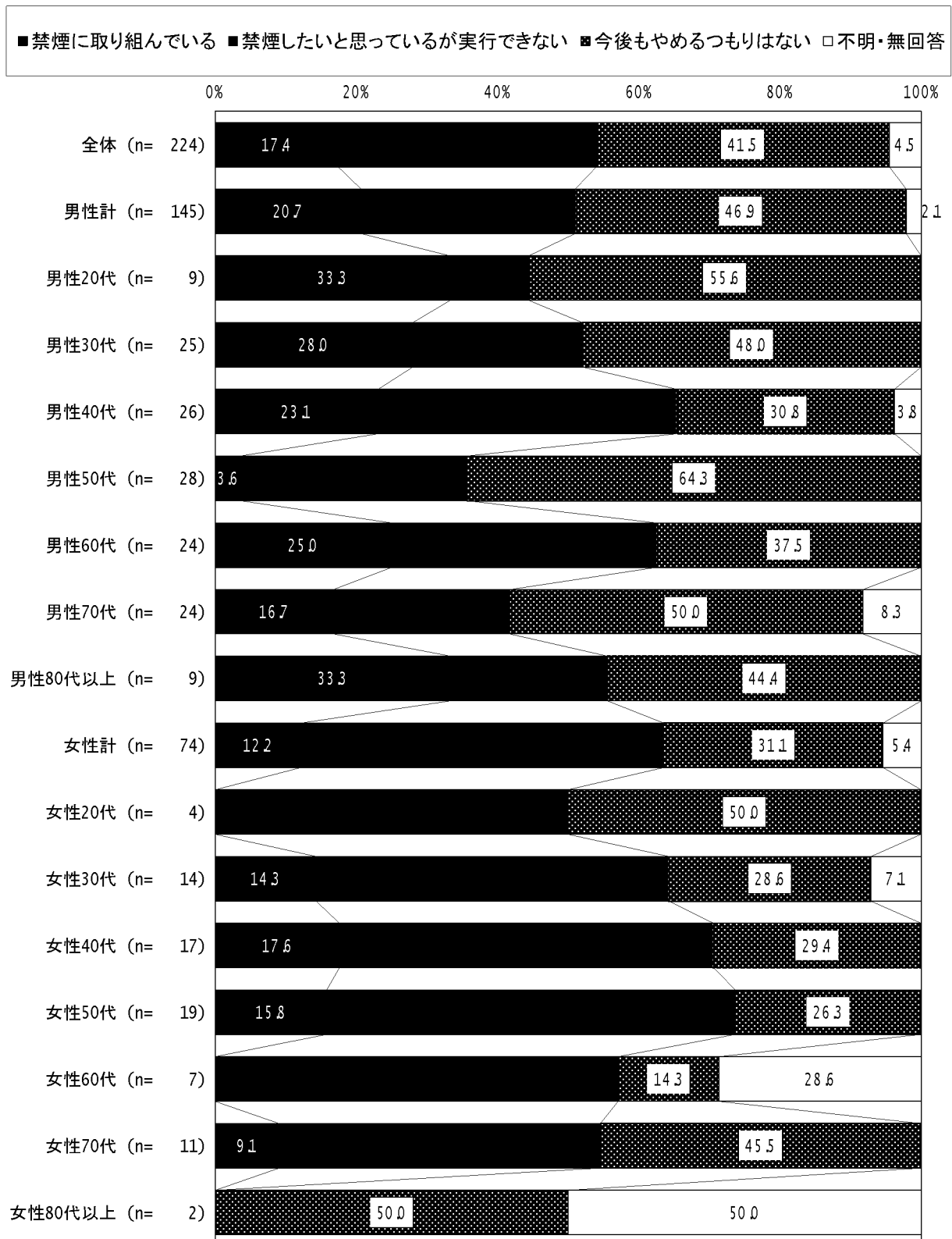
(n=224)



喫煙者に禁煙への取り組み状況をたずねたところ、「今後もやめるつもりはない」が41.5%と最も多く、次いで「禁煙したいと思っているが実行できない」(36.6%)、「禁煙に取り組んでいる」(17.4%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「今後もやめるつもりはない」は男性50代で6割を超えて多くなっている。

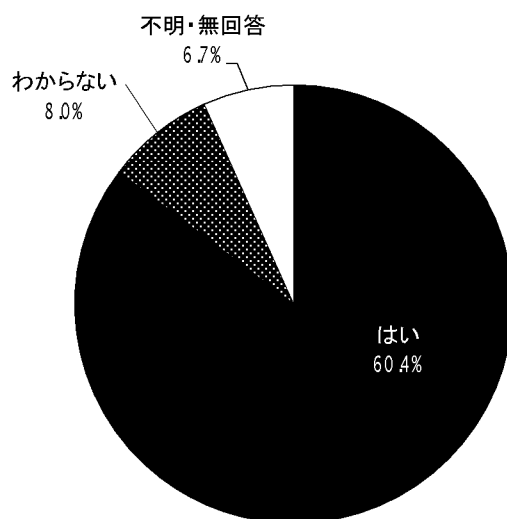
## <性別・年齢別 禁煙への取り組み状況>



## この1か月間の受動喫煙の有無

問23-①. あなたは、この1か月間に受動喫煙<sup>※</sup>を受けたことがありますか。 (○は1つ)  
※)受動喫煙とは、他人のたばこの煙を吸わされることです。

(n=1,243)

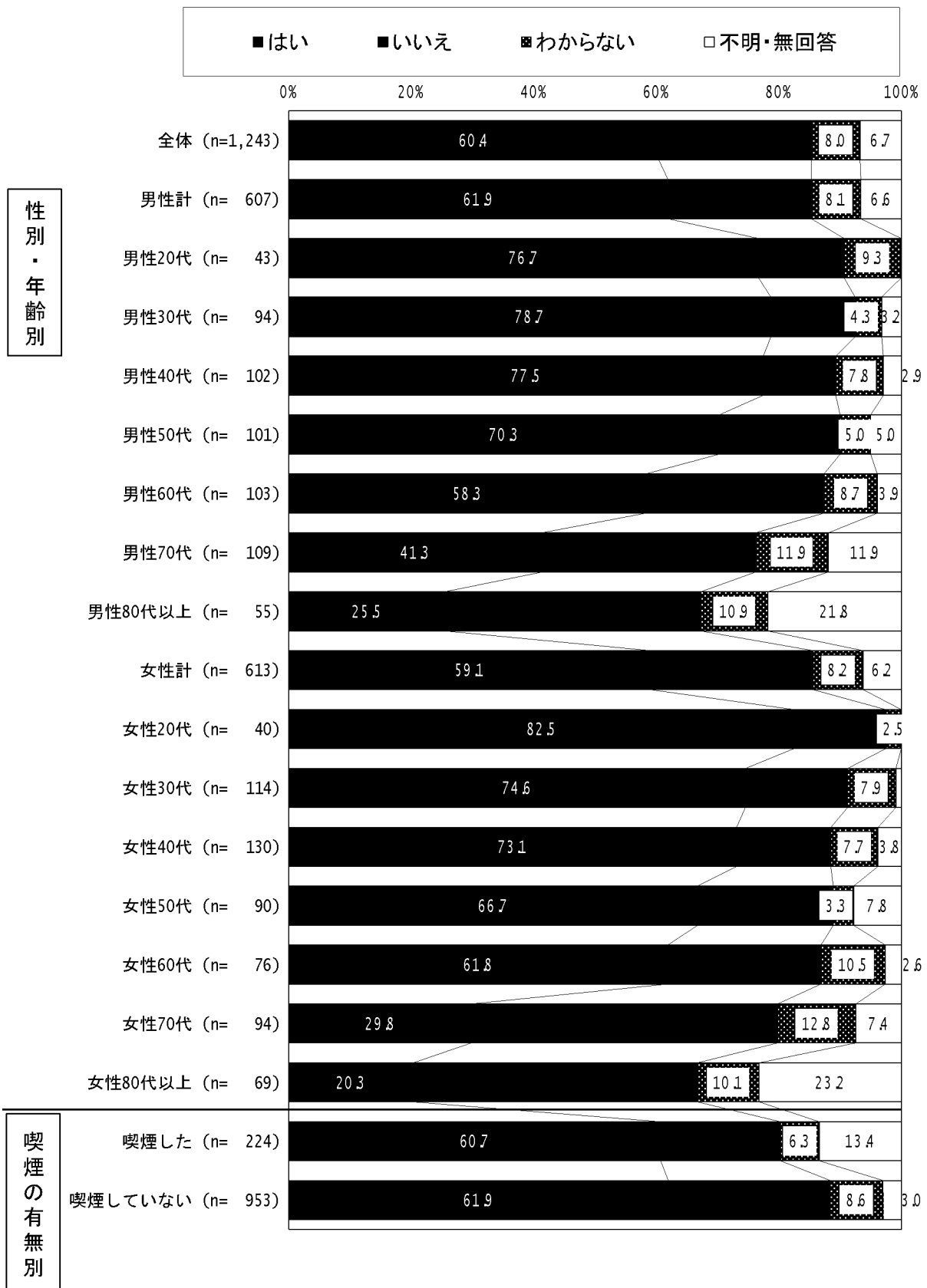


この1か月間の受動喫煙の有無は、「はい」が60.4%、「いいえ」が24.9%となっている。

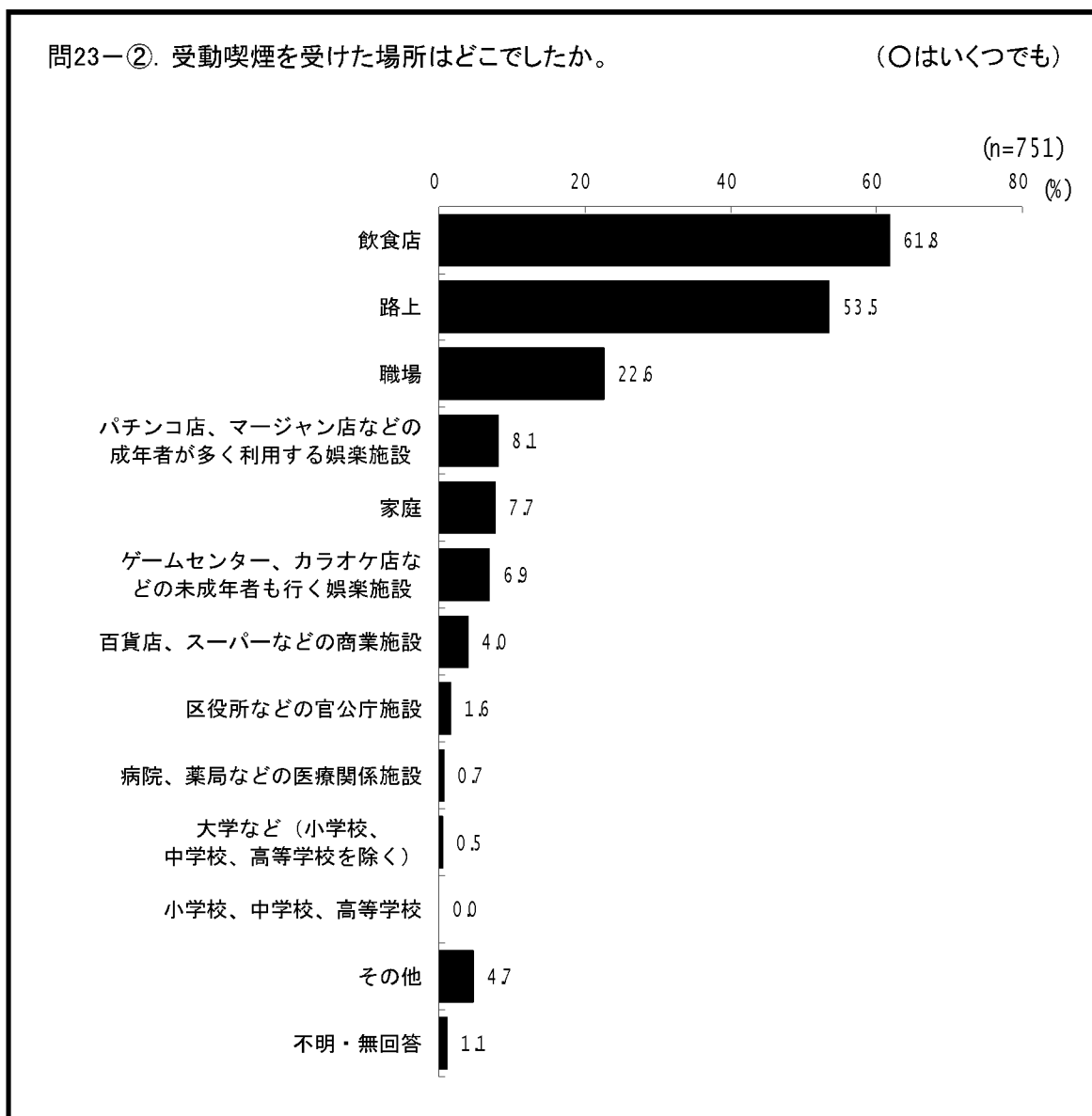
性別・年齢別にみると、「はい」は年齢が下がるほど多くなる傾向があり、男性では50代以下、女性では40代以下が7割を超えている。



<性別・年齢別・喫煙の有無別 この1か月間の受動喫煙の有無>



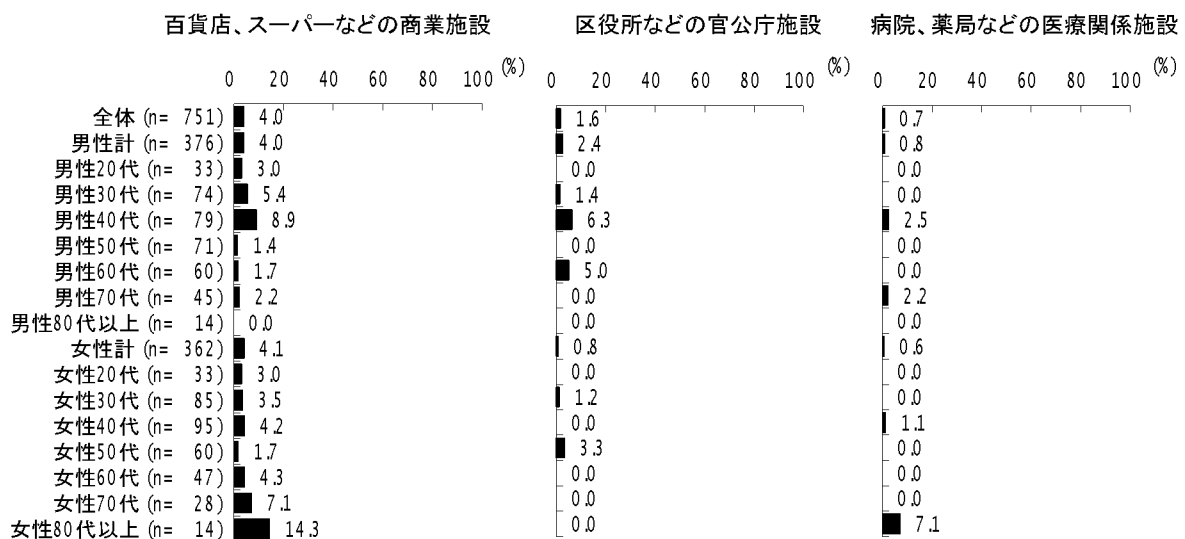
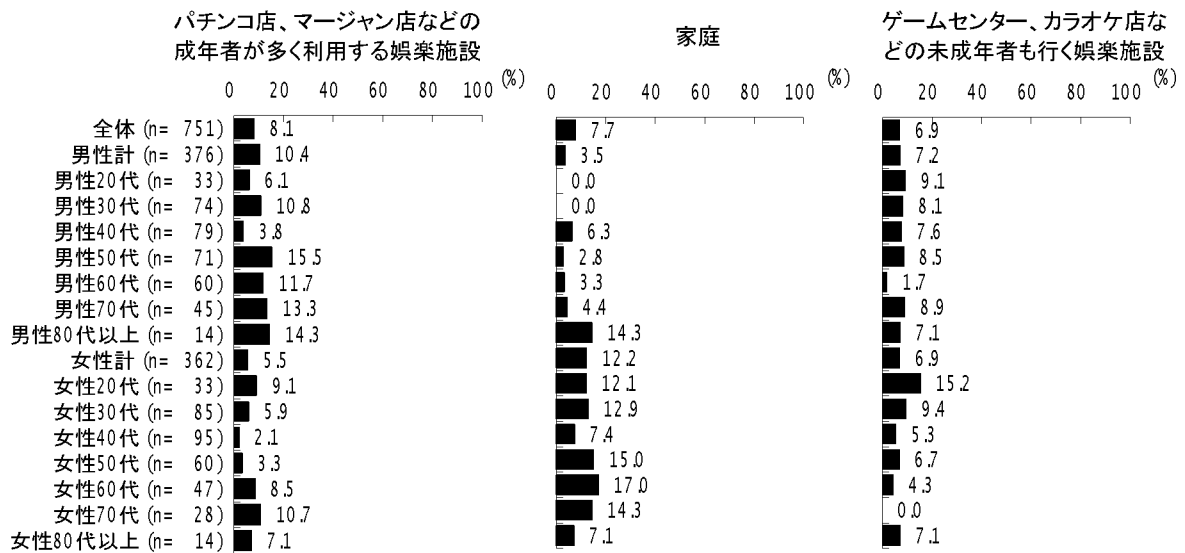
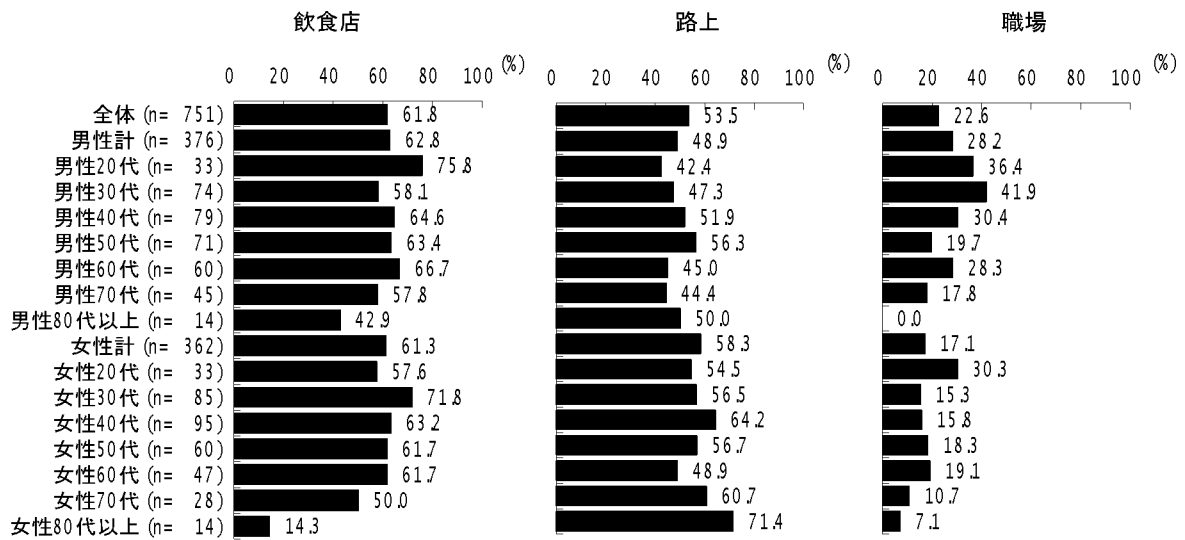
## 受動喫煙を受けた場所



この1か月間で受動喫煙を受けたことがある人に、その場所をたずねたところ、「飲食店」が61.8%と最も多く、次いで「路上」（53.5%）、「職場」（22.6%）の順に続いている。

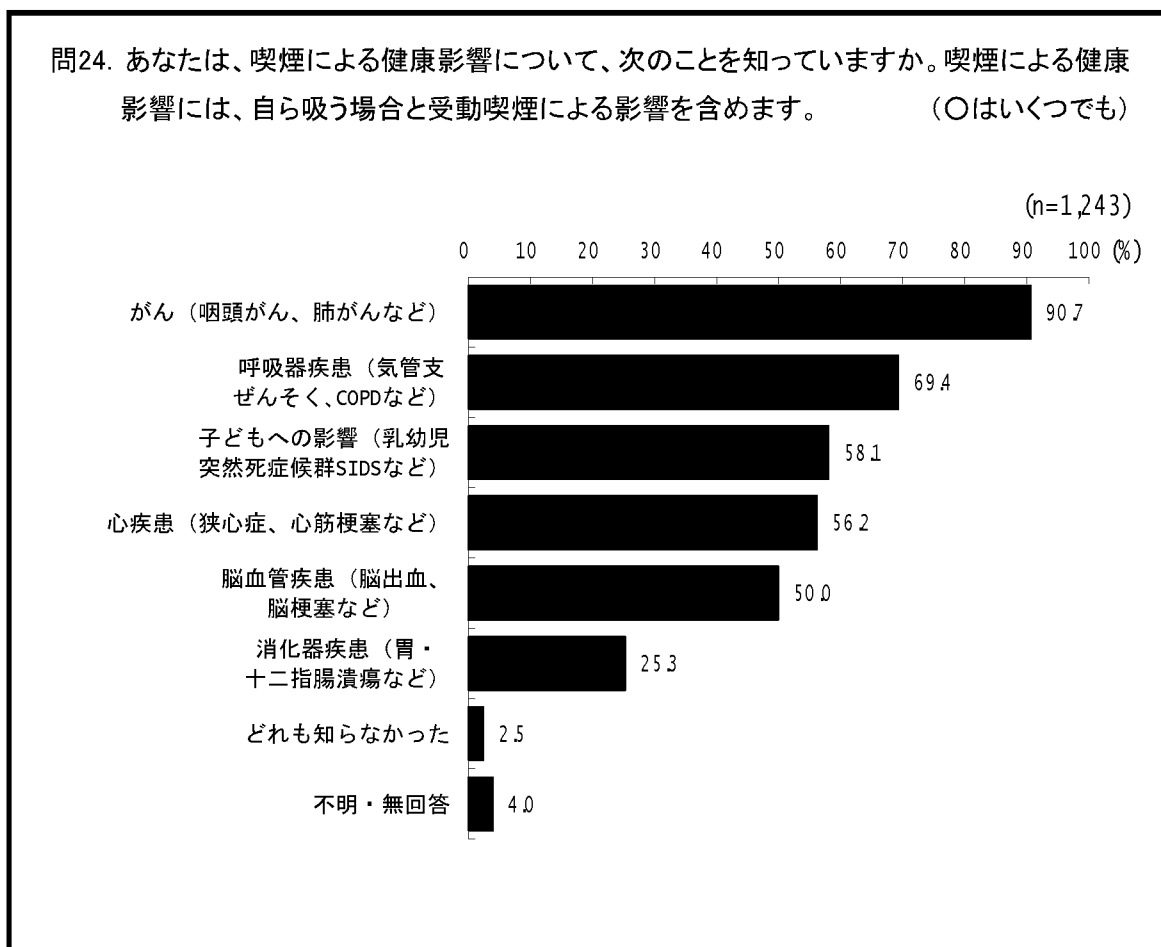
性別・年齢別にみると、「飲食店」は男性20代と女性30代で7割を超え多くなっている。「路上」は女性80代以上で7割を超え、他の性・年齢に比べて多くなっている。

<性別・年齢別 受動喫煙を受けた場所(上位9項目)>



## 喫煙による健康影響についての認知状況

問24. あなたは、喫煙による健康影響について、次のことを知っていますか。喫煙による健康影響には、自ら吸う場合と受動喫煙による影響を含めます。(○はいくつでも)

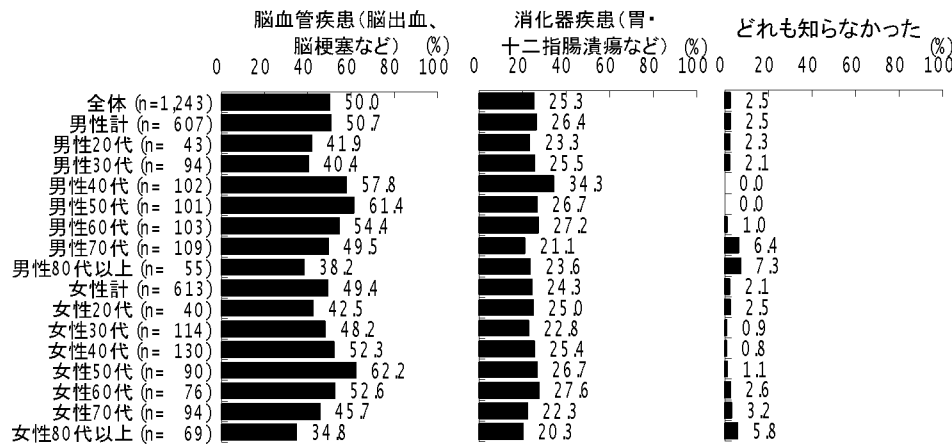
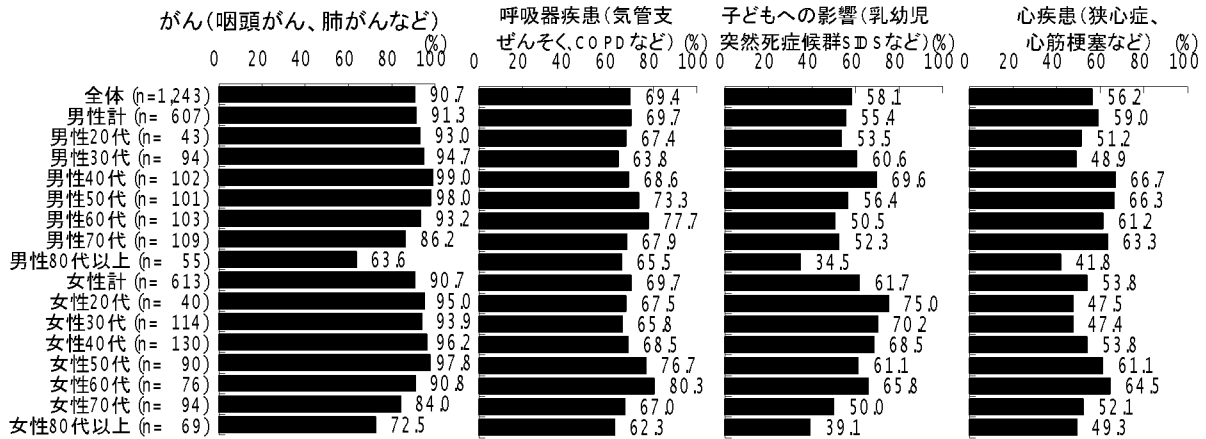


喫煙による健康影響についての認知状況は、「がん（咽頭がん、肺がんなど）」が90.7%と最も多く、次いで「呼吸器疾患（気管支ぜんそく、COPDなど）」（69.4%）、「子どもへの影響（乳幼児突然死症候群SIDSなど）」（58.1%）、「心疾患（狭心症、心筋梗塞など）」（56.2%）の順が続いている。

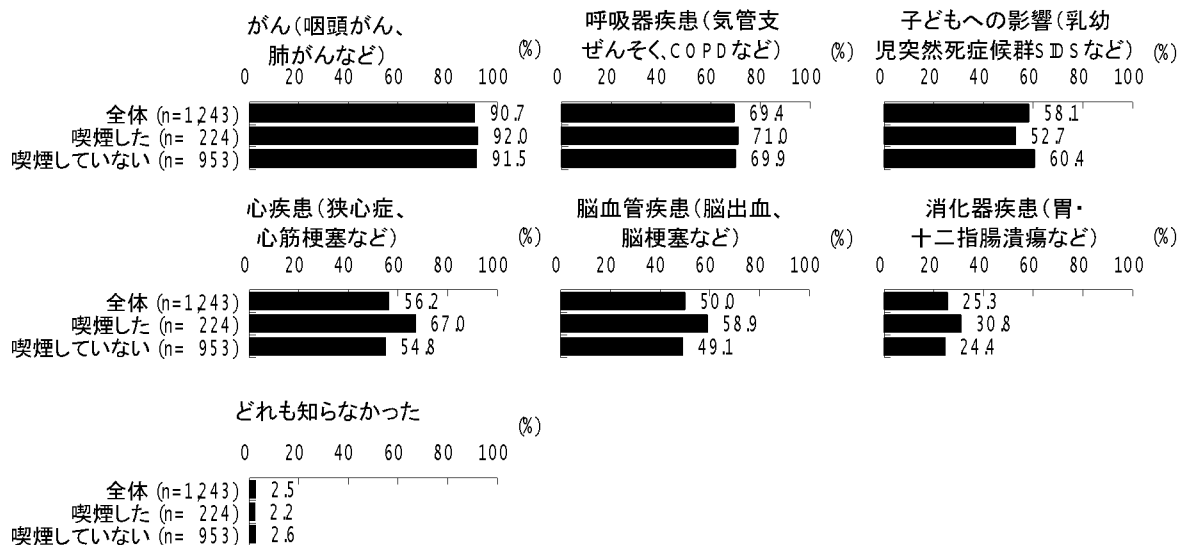
性別・年齢別にみると、「がん（咽頭がん、肺がんなど）」は、男女とも60代以下で9割を超えている。「呼吸器疾患（気管支ぜんそく、COPDなど）」は女性60代で8割を超え、「子どもへの影響（乳幼児突然死症候群SIDSなど）」は女性20代～30代で7割を超え、他の性・年齢と比較してそれぞれ多くなっている。

喫煙の有無別にみると、「子どもへの影響（乳幼児突然死症候群SIDSなど）」以外全ての項目で、「喫煙した」が「喫煙していない」より多くなっている。

## <性別・年齢別 喫煙による健康影響についての認知状況>

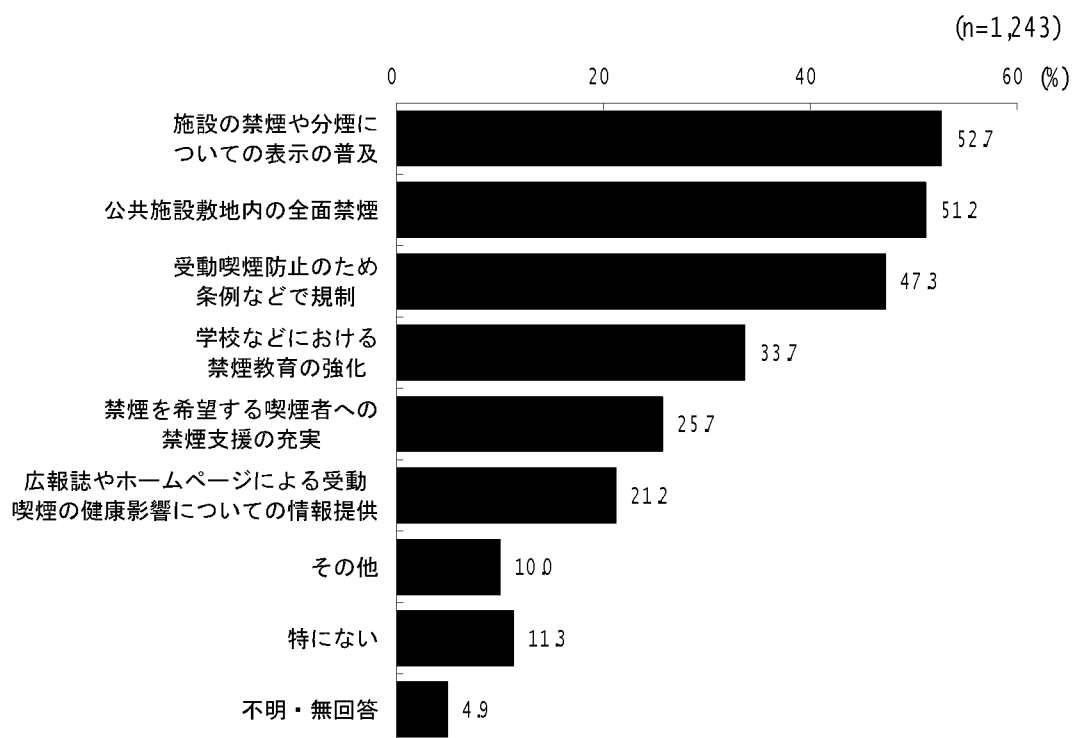


## <喫煙の有無別 喫煙による健康影響についての認知状況>



## 受動喫煙防止のため区として力を入れてほしいこと

問25. 受動喫煙防止のために、あなたは、今後、どのような対策、取り組みを区として力を入れてほしいと思いますか。  
(○はいくつでも)

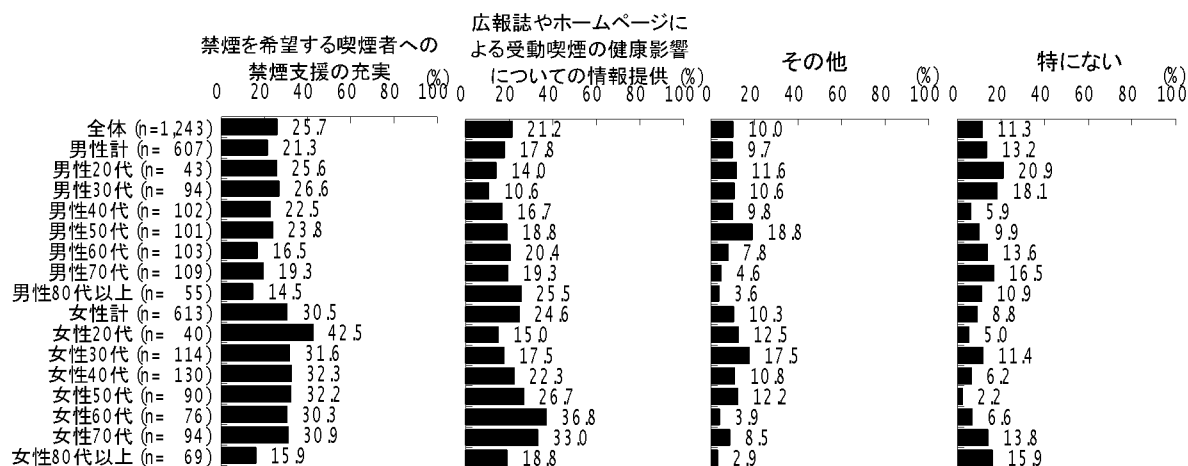
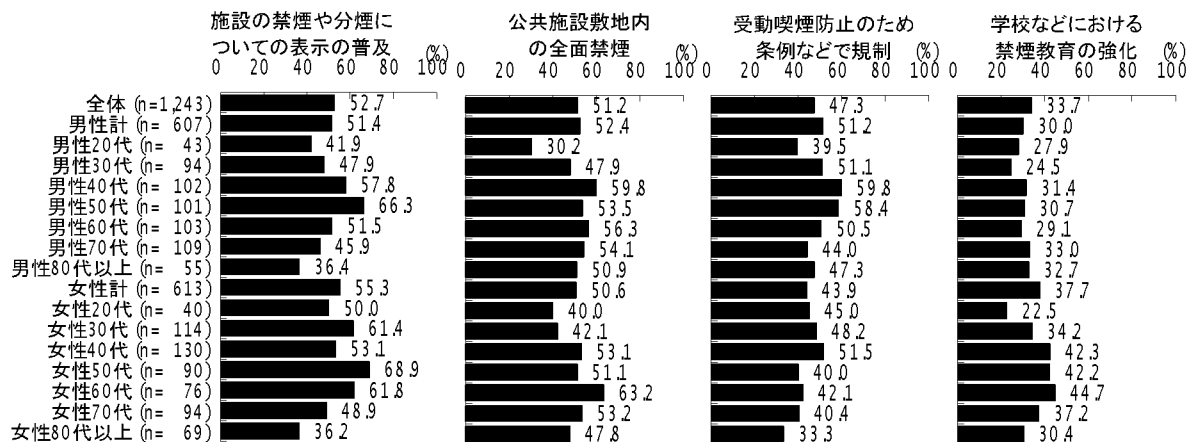


受動喫煙防止のため区として力を入れてほしいことは、「施設の禁煙や分煙についての表示の普及」が52.7%と最も多く、次いで「公共施設敷地内の全面禁煙」（51.2%）、「受動喫煙防止のため条例などで規制」（47.3%）の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「施設の禁煙や分煙についての表示の普及」は男女とも80代以上で4割を下回り少なくなっている。「公共施設敷地内の全面禁煙」は女性60代で6割を超え、他の性・年齢と比較して多くなっている。

喫煙の有無別にみると、「特にない」を除き、すべての項目で『喫煙していない』より『喫煙した』の方が多くなっている。

## <性別・年齢別 受動喫煙防止のため区として力を入れてほしいこと>



## <喫煙の有無別 受動喫煙防止のため区として力を入れてほしいこと>

